

(様式第10)

伊総第22- 130 号

令和 4 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 東海大学
理事長 松前 義昭

東海大学医学部付属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒151-8677 東京都渋谷区富ヶ谷二丁目10番2号
氏名	学校法人 東海大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

東海大学医学部付属病院

3 所在の場所

〒259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋143
電話(0463) 93 - 1121

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科		4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		<input type="radio"/>		11リウマチ科
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						無	
外科と組み合わせた診療科名							
<input type="radio"/>	1呼吸器外科	<input type="radio"/>	2消化器外科	<input type="radio"/>	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	<input type="radio"/>	6心臓血管外科		7内分泌外科	<input type="radio"/>	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input type="radio"/>	1精神科	<input type="radio"/>	2小児科	<input type="radio"/>	3整形外科	<input type="radio"/>	4脳神経外科
<input type="radio"/>	5皮膚科		6泌尿器科		7産婦人科	<input type="radio"/>	8産科
<input type="radio"/>	9婦人科	<input type="radio"/>	10眼科		11耳鼻咽喉科		12放射線科
<input type="radio"/>	13放射線診断科	<input type="radio"/>	14放射線治療科	<input type="radio"/>	15麻酔科		16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	<input type="radio"/>	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	腎内分泌代謝内科	2	移植外科	3	形成外科	4	麻酔科	5	リハビリテーション科
6	腎臓泌尿器科	7	救命救急科	8	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	9	臨床臨床科	10	病理診断科
11	緩和ケア科	12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
				804	804

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数	
医師	508	151	540.3	看護補助者	158	診療エックス線技師	0	
歯科医師	19	11	22.2	理学療法士	32	臨床 検査	臨床検査技師	147
薬剤師	68	8	73.8	作業療法士	11		衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	9		その他	0
助産師	19	3	21.3	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0	
看護師	992	91	1059.6	臨床工学士	35	医療社会事業従事者	17	
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	27	
歯科衛生士	7	0	7	歯科技工士	1	事務職員	183	
管理栄養士	13	3	15.4	診療放射線技師	74	その他の職員	0	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	63	眼科専門医	6
外科専門医	47	耳鼻咽喉科専門医	11
精神科専門医	6	放射線科専門医	17
小児科専門医	12	脳神経外科専門医	12
皮膚科専門医	3	整形外科専門医	16
泌尿器科専門医	6	麻酔科専門医	6
産婦人科専門医	18	救急科専門医	15
		合計	238

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (渡辺 雅彦) 任命年月日 平成 31 年 4 月 1 日

平成28年度IC記載状況確認分科会座長・IC管理責任者
 平成29年度IC記載状況確認分科会座長・IC管理責任者
 平成29年度高難度新規医療技術評価委員会委員長、未承認新規医薬品等評価委員会委員長
 平成29年度東海大学医学部附属病院医療安全に係る事象の病院長報告構成員
 平成30年度IC記載状況確認分科会座長・IC管理責任者
 平成30年度高難度新規医療技術評価委員会委員長、未承認新規医薬品等評価委員会委員長
 平成30年度東海大学医学部附属病院医療安全に係る事象の病院長報告構成員
 平成31年(令和元年)度医療安全管理委員会オブザーバー
 令和2年度医療安全管理委員会オブザーバー
 令和3年度医療安全管理委員会オブザーバー
 令和4年度医療安全管理委員会オブザーバー

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	721.1 人	14.6 人	735.6 人
1日当たり平均外来患者数	2247.4 人	102.2 人	2349.6 人
1日当たり平均調剤数		1105.1	剤
必要医師数		202.5	人
必要歯科医師数		1.9	人
必要薬剤師数		24.6	人
必要(准)看護師数		446.3	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	710.74 m ²	鉄筋コンクリート(免震)	病床数	32 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	159.36	m ²	病床数	13 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	82.8		m ²	
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	375.52 m ²	鉄筋コンクリート(免震)	(主な設備)	ラボスペクト008 α、XN-Alpha		
細菌検査室	107.73 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備)	マイクロスキャンW/A、バクテックMIGT		
病理検査室	284.68 m ²	鉄筋コンクリート(免震)	(主な設備)	プッシュプル換気装置付流台、切出台、自動染色装置、自動包埋装置		
病理解剖室	77.18 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備)	解剖台、切り出し台		
研究室	11152.96 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備)			
講義室	1256.16 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	室数	8 室	収容定員	834 人
図書室	2,099.45 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	室数	1 室	蔵書数	158,835 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	86.8	%	逆紹介率	63.7	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		21,006 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		19,644 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		5,772 人		
	D: 初診の患者の数		30,847 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
三木 保	医療法人慶友会守谷慶友病院長 東京医科大学 名誉教授(医師) (前東京医科大学病院長)	○	特定機能病院の管理者を経験し広い識見その他の学識経験を有している者。また、特定機能病院医療安全管理責任者を経験し医療安全管理に長けている者。さらに、医療安全や質の向上を目的に医療安全文化の構築を推進する者	無	1
大塚 達生	弁護士 (神奈川県弁護士会)		患者さん側の立場に立った弁護をされている者	無	1
山口 育子	認定NPO法人ささえあい医療人権センター COML理事長		患者と医療者の協働の実現により医療現場により良いコミュニケーションを築く活動をされている者	無	2
細野 文和	伊勢原市保健福祉部長		行政としての立場及び一般の立場の代表者	無	2
安田 聖栄	医療法人社団あんしん会四谷メディカルキューブ理事長(医師) (元東海大学医学部教授, 前東海大学医学部附属病院副院長)		東海大学医学部附属病院の医療安全統括者を経験し、医療安全管理に長けている者	有	1
千野 修	東海大学医学部附属東京病院 副院長・医療安全対策室長(医師)		東海大学医学部附属東京病院の医療安全統括者であり、医療安全管理に長けている者。また附属病院群の医療安全に係る責任者の代表者	有	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 当院ホームページに委員名簿、委員の選定理由を掲載 議事録は監査委員会終了後に掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(胸部、腹部の操作によるもの)(頸部、胸部、腹部の操作によるもの)(内視鏡手術用支援機器を用いて行った場合)	取扱患者数	27人
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における食道悪性腫瘍手術(適応:食道癌Stage1-3)			
医療技術名	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いて行った場合)	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における肺悪性腫瘍手術(適応:肺癌、転移性肺腫瘍)			
医療技術名	腹腔鏡下胃切除術、胃全摘術、噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術)(内視鏡手術用支援機器を用いて行った場合)	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における胃切除術(適応:胃癌)			
医療技術名	腹腔鏡下直腸切除・切断術(低位前方切除術)(内視鏡手術用支援機器を用いて行った場合)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における直腸切除・切断術(適応:直腸癌)			
医療技術名	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	124人
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における前立腺悪性腫瘍手術(適応:前立腺癌)			
医療技術名	腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いて行った場合)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 da Vinci支援下における腎盂形成手術(適応:腎盂尿管移行部狭窄症)			
医療技術名	経カテーテル的大動脈弁置換術	取扱患者数	136人
当該医療技術の概要 超高齢者、重度基礎疾患、胸部大動脈高度石灰化を有するなど、人工心肺を用いた通常の開胸手術に耐えられない症例にたいし、人工心肺を用いず鼠径部の動脈を経由し経カテーテル的に行う大動脈弁置換術。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	7
扱い患者数の合計(人)	318人

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	51	後縦靭帯骨化症	44
2	筋萎縮性側索硬化症	33	52	特発性大腿骨頭壊死症	7
3	脊髄性筋萎縮症	33	53	下垂体性ADH分泌異常症	16
4	原発性側索硬化症	33	54	下垂体性PRL分泌亢進症	9
5	進行性核上性麻痺	6	55	クッシング病	25
6	パーキンソン病	76	56	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	21
7	重症筋無力症	38	57	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	24
8	多発性硬化症／視神経脊髄炎	121	58	下垂体前葉機能低下症	76
9	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	6	59	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	198
10	封入体筋炎	65	60	先天性副腎皮質酵素欠損症	11
11	多系統萎縮症	7	61	先天性副腎低形成症	1
12	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	18	62	アジソン病	7
13	ライノゾーム病	3	63	サルコイドーシス	51
14	副腎白質ジストロフィー	11	64	特発性間質性肺炎	63
15	ミトコンドリア病	13	65	肺動脈性肺高血圧症	34
16	もやもや病	8	66	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	34
17	HTLV-1関連脊髄症	17	67	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	14
18	全身性アミロイドーシス	10	68	リンパ脈管筋腫症	4
19	ウルリッヒ病	5	69	網膜色素変性症	3
20	遠位型ミオパチー	5	70	特発性門脈圧亢進症	7
21	ベスレムミオパチー	5	71	原発性胆汁性肝硬変	96
22	シュワルツ・ヤンペル症候群	10	72	原発性硬化性胆管炎	23
23	神経線維腫症	4	73	自己免疫性肝炎	62
24	天疱瘡	9	74	クローン病	19
25	膿疱性乾癬(汎発型)	2	75	潰瘍性大腸炎	68
26	高安動脈炎	6	76	好酸球性消化管疾患	2
27	巨細胞性動脈炎	9	77	非典型溶血性尿毒症症候群	4
28	多発血管炎性肉芽腫症	165	78	筋ジストロフィー	10
29	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	14	79	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	10
30	悪性関節リウマチ	8	80	脊髄空洞症	4
31	バージャー病	13	81	アイザックス症候群	10
32	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	82	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	9
33	全身性エリテマトーデス	504	83	ビッカースタッフ脳幹脳炎	13
34	皮膚筋炎／多発性筋炎	175	84	痙攣重積型(二相性)急性脳症	9
35	全身性强皮症	59	85	先天性核上性球麻痺	33
36	混合性結合組織病	17	86	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	25
37	シェーグレン症候群	142	87	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	18
38	成人スチル病	11	88	家族性良性慢性天疱瘡	3
39	ベーチェット病	12	89	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	7
40	特発性拡張型心筋症	5	90	弾性線維性仮性黄色腫	3
41	肥大型心筋症	6	91	マルファン症候群	1
42	再生不良性貧血	14	92	メンケス病	16
43	自己免疫性溶血性貧血	25	93	オクシピタル・ホーン症候群	16
44	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	94	ウィルソン病	16
45	特発性血小板減少性紫斑病	27	95	低ホスファターゼ症	33
46	血栓性血小板減少性紫斑病	1	96	ウィリアムズ症候群	5
47	原発性免疫不全症候群	98	97	クルーゼン症候群	1
48	IgA腎症	31	98	ロスモンド・トムソン症候群	3
49	多発性嚢胞腎	7	99	急速進行性糸球体腎炎	261
50	黄色靭帯骨化症	44	100	抗糸球体基底膜腎炎	17

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
--	-----	-----	--	-----	-----

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

101	一次性ネフローゼ症候群	28	141	
102	紫斑病性腎炎	11	142	
103	間質性膀胱炎(ハンナ型)	8	143	
104	閉塞性細気管支炎	5	144	
105	α 1-アンチトリプシン欠乏症	70	145	
106	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	11	146	
107	副甲状腺機能低下症	4	147	
108	副腎皮質刺激ホルモン不応症	27	148	
109	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	33	149	
110	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	35	150	
111	グルタル酸血症2型	11	151	
112	尿素サイクル異常症	76	152	
113	シトステロール血症	198	153	
114	強直性脊椎炎	2	154	
115	後天性赤芽球ろう	1	155	
116	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1	156	
117	ファンコニ貧血	1	157	
118	エプスタイン症候群	45	158	
119	非特異性多発性小腸潰瘍症	2	159	
120	乳幼児肝巨大血管腫	21	160	
121	遺伝性膵炎	105	161	
122	IgG4関連疾患	105	162	
123	黄斑ジストロフィー	3	163	
124	若年発症型両側性感音難聴	23	164	
125	遅発性内リンパ水腫	2	165	
126	好酸球性副鼻腔炎	9	166	
127	進行性白質脳症	36	167	
128	カルニチン回路異常症	11	168	
129	三頭酵素欠損症	11	169	
130	シトリン欠損症	76	170	
131	β -ケトチオラーゼ欠損症	11	171	
132	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る)	690	172	
133	先天性気管狭窄症	1	173	
134	特発性多中心性キャスルマン病	7	174	
135			175	
136			176	
137			177	
138			178	
139			179	
140			180	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	134件
合計患者数(人)	5064人

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(一般7対1)	・特定集中治療室管理料4(注2・4・5)
・超急性期脳卒中加算	・総合周産期特定集中治療室管理料1・2
・診療録管理体制加算1	・新生児治療回復室入院医療管理料
・医師事務作業補助体制加算[(イ)15対1]	・小児入院医療管理料2・4(プレイルーム加算)
・急性期看護補助体制加算(25対1)5割以上	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・看護職員夜間配置加算(12対1)	・歯科外来診療環境体制加算2
・療養環境加算	・歯科診療特別対応連携加算
・無菌治療室管理加算1・2	・地域歯科診療支援病院入院加算
・緩和ケア診療加算	・救急医療管理加算
・精神科リエゾンチーム加算	・夜間急性期看護補助体制加算100:1 (夜間看護体制加算)
・栄養サポートチーム加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・医療安全対策加算1	・排尿自立支援加算
・感染防止対策加算1	・地域医療体制確保加算
・感染防止対策地域連携加算	
・抗菌薬適正使用加算	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・呼吸ケアチーム加算	
・後発医薬品使用体制加算1	
・病棟薬剤業務実施加算1・2	
・データ提出加算2	
・入退院支援加算1(入院時支援加算)	
・認知症ケア加算1	
・救命救急入院料3・4(注3・5・7)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・糖尿病合併症管理料	・胎児心エコー法
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・外来緩和ケア管理料	・脳波検査判断料1
・移植後患者指導管理料(臓器・造血幹細胞)	・神経学的検査
・糖尿病透析予防指導管理料 (高度腎機能障害患者指導加算)	・補聴器適合検査
・腎代替療法指導管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・院内トリアージ実施料	・内服・点滴誘発試験
・外来放射線照射診療料	・腹腔鏡下胃全摘術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談体制 充実加算	・画像診断管理加算1・2
・がん治療連携計画策定料	・遠隔画像診断
・肝炎インターフェロン治療管理料	・ポジトロン断層撮影
・外来排尿自立指導料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ハイリスク妊産婦連携指導料1・2	・CT撮影及びMRI撮影
・薬剤管理指導料	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料1・2	・外傷全身CT加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・心臓MRI撮影加算
・在宅血液透析指導管理料	・乳房MRI撮影加算
・持続血糖測定器加算	・外来化学療法加算1
・遺伝学的検査(遺伝学的検査の注)	・無菌製剤処理料
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体 (抗体特異性同定検査)	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・検体検査管理加算Ⅰ・Ⅳ	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・遺伝カウンセリング加算	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・がん患者リハビリテーション料
・時間内歩行試験	・リンパ浮腫複合的治療料

施設基準の種類	施設基準の種類
---------	---------

・通院・在宅精神療法(児童思春期精神科専門管理加算)	・経カテーテル大動脈弁置換術
・エタノールの局所注入 (甲状腺に対するもの・副甲状腺に対するもの)	・経皮的僧帽弁クリップ術
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・経皮的中隔心筋焼灼術
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・センチネルリンパ節加算	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・皮膚移植術(死体)	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
・組織拡張器による再建手術(一連につき) (乳房(再建手術)の場合に限る)[一次再建・二次再建]	・両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・補助人工心臓
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	・画像誘導密封小線源治療加算
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・体外衝撃波胆石破碎術
・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・腹腔鏡下肝切除術
・網膜再建術	・体外衝撃波膀胱石破碎術
・人工中耳植込術	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・人工内耳植込術	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・植込型骨導補聴器移植術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・植込型骨導補聴器交換術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)[歯科診療以外の診療に係るものに限る]	・同種クリオプレシピテート作製術
・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)(腋窩郭清を伴うもの))	・焦点式高エネルギー超音波療法
・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術	・同種死体腎移植術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)[一次一期再建・一次二期的再建および二次再建]	・生体腎移植術
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜・心膜合併切除を伴うものに限る))	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・食道縫合術(穿孔・損傷)(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術に対する乳房切除術)
・輸血管理料 I	・病理診断管理加算2

・輸血適正使用加算	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・歯科口腔リハビリテーション料2
・コーディネート体制充実加算	・口腔病理診断管理加算1
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・麻酔管理料(Ⅰ)・(Ⅱ)	・歯科矯正診断料
・放射線治療専任加算	・歯周組織再生誘導手術料
・外来放射線治療加算	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・高エネルギー放射線治療	・精密触覚機能検査
・1回線量増加加算	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・強度変調放射線治療(IMRT)	・CAD/CAM冠
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	・骨髄微小残存病変量測定
・体外照射呼吸性移動対策加算	・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
・定位放射線治療	・椎間板内酵素注入療法
・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)	・角膜移植術(内皮移植加算)
・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術 (軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・胸腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・ウイルス疾患指導料(注2に規定する加算)	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・外来栄養食事指導料の注2に規定する施設基準	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・不整脈手術 左心耳閉鎖術 (経カテーテル的手術によるもの)
・小児運動器疾患指導管理料	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・婦人科特定疾患治療管理料	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・BRCA1/2遺伝子検査	・経皮的下肢動脈形成術

施設基準の種類	施設基準の種類
・がんゲノムプロファイリング検査	
・国際標準検査管理加算	
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	
・血流予備量比コンピューター断層撮影	
・全身MRI撮影加算	
・連携充実加算	

・入院時食事療養(Ⅰ)	
・救急患者精神科継続支援料	
・羊膜移植術	
・内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	
・小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	
・結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	
・腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	
・尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	
・膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	
・腹腔鏡下仙骨膣固定術(内視鏡手術用支援機器を用いた場合)	
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術(胃瘻造設術)	
・歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	
・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2	
・顎関節人工関節全置換術	
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	
・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
細胞活性化時の生理機能変化を担う「分子レバレッジ機構」の解明	後藤 信哉	循環器内科学	1,500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
多検体日本人口腔癌のエクソーム解析に基づく移植マウスモデルを用いた発がん機構解析	太田 嘉英	口腔外科学	2,800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
胃癌幹細胞及び同前駆細胞を駆逐する二段階分子標的療法の開発	鈴木 秀和	消化器内科学	3,500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
椎間板細胞のリプログラミング手法の確立と再生医療への橋渡しへ向けた基盤技術開発	酒井 大輔	整形外科学	3,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
既成概念を打破する血清網羅的糖ペプチド解析による卵巣癌早期診断の社会実装	三上 幹男	産婦人科学	3,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
長期開存ステントを実現する薬剤溶出・生分解性ポリマー/炭素薄膜のハイブリッド技術	長谷部光泉	画像診断学	7,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
プロバイオティクスによるアスピリン小腸粘膜傷害改善の病態解明	鈴木 孝良	消化器内科学	800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
イノシトール・ポリリン酸における神経変性疾患の病態生理機構の解明	永田栄一郎	脳神経内科学	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
難治性血液腫瘍の中樞神経浸潤に対する新たな低侵襲性治療法の開発	川田 浩志	血液・腫瘍内科学	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
再生アンジオサイト細胞静注による認知症治療法の開発	今関 良子	脳神経内科学	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
新規核種95-Tcを用いた次世代医療用ガンマ線カメラの臨床仕様化へ向けた基礎開発	株木 重人	放射線治療科学	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
胎児が制御する羊膜・絨毛膜の恒常性維持機構とその破綻	石本 人士	産婦人科学	700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
重症僧帽弁閉鎖不全症に対する経皮的僧帽弁形成術の新規治療効果判定モデルの確立	大野 洋平	循環器内科学	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
病態ウサギにおける重粒子線の心房細動抑制作用と電気生理学機序の解明	網野 真理	救命救急医学	100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
気道内に粘液栓を形成するアレルギー性気管支肺真菌症モデル動物の開発	白石 良樹	呼吸器内科学	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
真菌関連アレルギー性気道疾患の原因真菌診断法確立	浅野浩一郎	呼吸器内科学	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
小腸移植におけるNotchシグナルの免疫応答制御とメカニズムの解明	森 昌玄	小児外科学	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
麻酔と唾液分泌に関する研究	渡邊真理子	麻酔科学	800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
骨格筋由来幹細胞を用いた脊髄損傷治療法の開発	小林 由香	整形外科学	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
前庭片頭痛の客観的評価、新規治療のためのバイオマーカーとドライバー遺伝子の探索	五島 史行	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
新しい糖尿病網膜症モデルの確立	鈴木 崇弘	眼科学	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
外傷における包括的長期予後データベースの構築とテラーメイド型退院後医療の確立	土谷 飛鳥	救命救急医学	800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

軟骨細胞シートの軟骨再生機序を基盤とする軟骨損傷治療法の開発	豊田 恵利子	整形外科学	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ヒトiPS細胞由来肝細胞の極性形成誘導と薬物性肝障害モデルの構築	鶴谷 康太	消化器内科学	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
致死性心室不整脈患者に対する放射線体外照射による新規不整脈治療	吉岡公一郎	循環器内科学	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
真菌による難治性気道アレルギー疾患の発症機序の解明と治療開発	小熊 剛	呼吸器内科学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
急性腎障害が惹起する骨ミネラル代謝異常：疾患概念の確立と病態解明	駒場 大峰	腎・代謝内科学	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腎臓病に伴う副甲状腺腫瘍化における機能性RNAの機能解析	金井 巖太	腎・代謝内科学	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
AGEsに着目した移植腎の非免疫学的予後規定因子に関する多面的臨床研究	中村 道郎	移植外科学	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脊髄損傷2次障害に対するGLP-1受容体作動薬の有効性の検討	渡辺 雅彦	整形外科学	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
多施設研究によって耳下腺唾液腺導管癌の予後因子と治療標的を明らかにする	大上 研二	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔扁平上皮癌における患者腫瘍移植マウスモデルを用いた新規治療法の開発	山崎 浩史	口腔外科学	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
マイクロファイバー細胞分離を用いた消化管アレルギーとその関連疾患の病態解明	山田 佳之	小児科学	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
インターフェロンによる2型自然リンパ球依存性喘息抑制作用におけるTSLPの影響	岡田 直樹	呼吸器内科学	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ステロイド治療を補う新たな治療薬開発に向けた放射線肺炎の病態研究	伊藤 洋子	呼吸器内科学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
副甲状腺細胞の脂肪分化による過形成腺周囲への脂肪蓄積の機序の解析	角田 隆俊	腎・代謝内科学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎/急速進行性間質性肺炎の病態解明および新規治療法の開発	佐藤 慎二	リウマチ内科学	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
遷延性気胸に対する組織再生治療：新規インジェクタブルゲルによる胸膜コーティング	中川 知己	呼吸器外科学	600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
モルヒネ誘発性疼痛におけるNMDA受容体活性調節因子Dセリン的作用	松田 光正	麻酔科学	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新しい内因性ペプチド、シアロフィンの疼痛制御における役割	姜 卓義	麻酔科学	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
神経障害性疼痛に伴う脊髄後角ニューロン変調におけるD体セリン的作用	伊藤 健二	麻酔科学	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
皮膚揮発性物質分析による農薬中毒の診断法の実用化	梅澤 和夫	救命救急医学	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脊髄損傷後の二次障害を軽減するGLP-1受容体作動薬の治療効果メカニズム	加藤 裕幸	整形外科学	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
人工知能援用による癌局在抽出・追従技術を活用した前立腺がん標的局所療法の確立	小路 直	腎泌尿器科学	1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
リボクオリティに着目したフェルトーシス誘導による腎細胞癌に対する新規治療法の確立	長谷川政徳	腎泌尿器科学	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
我々が同定した卵巣明細胞癌早期発見に有用な血清糖蛋白マーカーの測定キット開発	池田 仁恵	産婦人科学	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
慢性創傷とNETs発現の関連の解明とNETsをターゲットにした新規治療の開発	今川孝太郎	形成外科学	600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
神経・筋疾患における筋シナジーに注目した運動制御法の解明	西田 大輔	リハビリテーション科学	1,800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
次世代型神経筋電気刺激法による理学療法の代替効果の検証	青木 弘道	救命救急医学	1,800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

骨格筋による脳への影響の解明:うつ病と認知症への効果から脳筋相関の解明を目指して	赤間 史明	精神科学	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
マウス・ヒト消化器癌患者骨格筋量に対するシンバイオティクスの影響	茅野 新	消化器外科学	300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腹直筋を移植細胞ソースとした骨格筋由来幹細胞による尿失禁治療	中島 信幸	腎泌尿器科学	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
水素投与によるマウス未熟児網膜症の改善効果および血管内皮前駆細胞の動態の検討	中川 喜博	眼科学	300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
造血幹細胞移植時に生じる口腔粘膜障害と口腔細菌叢の関係についての検討	高橋 美穂	口腔外科学	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Liquid biopsyは口腔扁平上皮癌で有効か? [NOTCHIに注目して]	内堀 雅博	口腔外科学	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
発達早期の腸内細菌叢による認知特性への影響の解明	渡邊 己弦	精神科学	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
抗真菌薬溶出性血管塞栓症の開発:肺炎アスペルギルス症に伴う咯血の新規治療戦略	山本 章太	画像診断学	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ミトコンドリア蛋白MGARPが関わるステロイドホルモン産生細胞の恒常性維持機構	西島 義博	産婦人科学	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔扁平上皮癌網羅的遺伝子解析に基づく免疫チェックポイント阻害薬感受性の評価	大澤 侑子	口腔外科学	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
子宮頸部腺癌における個別化医療の探索	町田 弘子	産婦人科学	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
潰瘍性大腸炎・病態型と腸内細菌叢、T細胞機能バランスおよびHLA型の関連解析	金子 元基	消化器内科学	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
長期生存肺癌における特異的microRNAと標的分子の解明	森町 将司	消化器内科学	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
下肢動脈の末梢閉塞性動脈疾患に対する血管内治療後の血管における病理学的検討	鳥居 翔	循環器内科学	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
心筋梗塞後の心筋再生に寄与する患者背景因子と体細胞遺伝子の検討	棗田 誠	循環器内科学	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
加熱式たばこの煙の肺胞上皮細胞に与える影響:加熱式たばこの有害性の啓蒙を目指して	大新田可奈	呼吸器内科学	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
代謝モジュレーションによる抗糸球体硬化療法の開発	小泉 賢洋	腎・代謝内科学	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ドラッグマップ耐性多発性骨髄腫細胞のトランスクリプトーム解析と治療標的の同定	扇屋 大輔	血液・腫瘍内科学	100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
悪性リンパ腫の遺伝子変異を標的とした新規治療法の開発	川井 英嗣	血液・腫瘍内科学	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
特発性炎症性筋疾患における新規自己抗体の検出および臨床応用	細野 祐司	リウマチ内科学	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
免疫チェックポイント蛋白に着目した腎移植における新規免疫抑制療法の提案	富田 祐介	移植外科学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
数値シミュレーションを用いた鼻副鼻腔通気に関する新規検査法の開拓	金田 将治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
内的酸化ストレスに惹起される角膜内皮細胞減少の分子機構解明と予防	尾内 宏美	眼科学	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
骨格筋幹細胞由来サイトカインを用いた神経・血管網の再生	楨 大輔	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Anacetrapibを用いた脳虚血再灌流障害に対する脳保護作用の検討	水間 敦士	脳神経内科学	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
膝神経内分泌腫瘍における細胞接着分子Necl-4の発現と機能の解析	川西 彩	消化器内科学	1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
神経調節制失神の発症ならびに予後規定因子の解明について	綾部 健吾	循環器内科学	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

脳心連関から検討するたこつぼ型心筋症の病態解明	村上 力	循環器内科学	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
移植後特発性肺炎症候群の解明:アンジオテンシン2が肺胞マクロファージを活性化させる	原 隆二郎	血液・腫瘍内科学	2,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
制御性T細胞による慢性骨髄性白血病幹細胞の支持機構解明	原田 介斗	血液・腫瘍内科学	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
多様なプロテアーゼに親和性を持ち妊婦の炎症を抑制するプロテアーゼ阻害分子の解析	柏木 寛史	産婦人科学	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
CBDとHPV関連頭頸部癌 その増殖メカニズムの解明	戎本 浩史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
高いX線視認性を有する肝臓がん治療用の新規薬剤徐放性マイクロビーズの創製	長谷部光泉	画像診断学	1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Functional analysis of alpha-2-glycoprotein 1, zinc-binding (ZAG) on host immune response in breast cancer microenvironment.	花村 徹	乳腺・腫瘍科学	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
本邦における遠洋救急の実態	杉田真理子	救命救急医学	100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
超臨界地熱資源開発のための延性地殻の水圧破壊メカニズムおよび水理特性の解明	駒場 大峰	腎・代謝内科学	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
医療機器産業活性化に資する医療機器開発の若手人材の育成・育成のための研究	伊苺 裕二	循環器内科学	1,565,000	補委	厚生労働省
乳児～成人の好酸球性消化管疾患、良質な医療の確保を目指す診療提供体制構築のための研究	山田 佳之	小児科学	770,000	補委	国立保健医療科学院
変形性膝関節症に対する同種細胞シート移植の臨床研究	佐藤 正人	整形外科学	23,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
関節軟骨再生治療の普及を加速するiPS細胞由来軟骨細胞シートの研究開発	佐藤 正人	整形外科学	9,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ヒト多能性幹細胞を用いた転写/エピゲノム多様性・性差に基づく神経細胞分化能の制御機構解明と予測モデルの構築	福田 篤	分子生命科学	20,500,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
膝窩動脈以下 (below-the-knee: BTK) の細径動脈硬化性病変に対する長期開存ステントシステムの開発	長谷部光泉	画像診断学	21,108,010	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
真菌関連アレルギー性気道疾患の発症・増悪予防を目指した体内・体外環境の評価と制御	浅野 浩一郎	呼吸器内科学	6,500,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
変形性膝関節症に対する自己細胞シート移植による先進医療の完遂	佐藤 正人	整形外科学	32,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
革新的遺伝子量補則法による性特異的X連鎖遺伝疾患iPS細胞を用いた脳神経病態モデリングに関する研究開発	福田 篤	分子生命科学	15,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ハイリスク患者選別のためのCOVID-19ウイルス抗原特異的免疫応答の網羅的評価法の開発	椎名 隆	分子生命科学	3,500,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
劇症型NK白血病における独特なニッチの分子基盤解明とその制御法開発	幸谷 愛	先端医療科学	5,500,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ピロリ菌関連胃癌を制御する食習慣と胃内環境の特定に向けた国際臨床研究	鈴木 秀和	消化器内科学	10,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

計97件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Sho Torii	医学部医学科内科学系循環器内科学	Antiplatelet Effect of Single Antiplatelet Therapy With Prasugrel and Oral Anticoagulation After Stent Implantation in a Rabbit Arteriovenous Shunt Model.	Circ Rep,202109	Original Article
2	Takeshi Ijichi	医学部医学科内科学系循環器内科学	Late neointimal volume reduction is observed following biodegradable polymer-based drug eluting stent in porcine model.	IJC Heart & Vasculature,202105	Original Article
3	Yuji Ikari	医学部医学科内科学系循環器内科学	Association Between Statin Use Prior to Admission and Lower Coronavirus Disease 2019 (COVID-19) Severity in Patients With Cardiovascular Disease or Risk Factors.	Circ J,202104	Original Article
4	Kaito Harada	医学部医学科内科学系血液・腫瘍内科学	Plasminogen activator inhibitor type-1 is a negative regulator of hematopoietic regeneration in the adipocyte-rich bone marrow microenvironment.	Biochem Biophys Res Commun.,202104	Original Article
5	Tomoo Nagai	医学部医学科内科学系循環器内科学	Value of standard echocardiography at the bedside for COVID-19 patients in intensive care units: a Japanese single-center analysis	Journal of Medical Ultrasonics,202110	Original Article
6	Kawakami Shohei	医学部医学科内科学系血液・腫瘍内科学	Pterostilbene downregulates BCR/ABL and induces apoptosis of T3151-mutated BCR/ABL-positive leukemic cells	Scientific Reports,202201	Original Article
7	Tsutomu Murakami	医学部医学科内科学系循環器内科学	Impact of tolvaptan on improvement of tricuspid regurgitation and right ventricular dimension in patients with right-sided heart failure.	Heart and vessels,202201	Original Article
8	Chiharu Tanaka	医学部医学科外科学系心臓血管外科学	Acute limb ischemia caused by embolus of primary lung cancer complicating Trousseau's syndrome	Annals of Vascular Disease,202203	Original Article
9	Atsuhiko Yagishita	医学部医学科内科学系循環器内科学	Successful bailout of refractory ventricular fibrillation originating from the moderator band using bipolar ablation in a patient with short-coupled variant of torsade de pointes	Europace,202108	Original Article
10	Masao Toyoda	医学部医学科内科学系腎・代謝内科学	The assessment of the accuracy of an intermittent-scanning continuous glucose monitoring device in patients with type 2 diabetes mellitus undergoing hemodialysis (AIDT2H) study.	Ther Apher Dial,202110	Original Article
11	Akihiro Hirayama	医学部医学科外科学系脳神経外科学	Diagnostic Tests for COVID-19 and Their Accuracy: Important Information for Physicians Caring for Patients with Stroke.	Journal of Neuroendovascular Therapy Advance,202108	Original Article
12	Atsuhiko Yagishita	医学部医学科内科学系循環器内科学	Impact of exercise capacity on the long-term incidence of atrial arrhythmias in heart failure	Scientific Reports,202109	Original Article
13	Shohei Obayashi	医学部医学科内科学系呼吸器内科学	Rhabdomyolysis Caused by Gefitinib Overdose: A Case Report.	Internal Medicine,202110	Original Article
14	Yota Kawamura	医学部医学科内科学系循環器内科学	Coronary orbital atherectomy using a five-French guiding catheter	Cardiovascular Intervention and Therapeutics,202112	Original Article
15	Nana Murotani	医学部医学科内科学系循環器内科学	First Reported Use of a Visualization Device for the Radial Artery With Near-Infrared Rays Through the Transradial Approach	Journal of Invasive Cardiology,202110	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
16	Takato Abe	医学部医学科内科学系脳神経内科学	Progression of Cortical Dysfunction in Hereditary Diffuse Leukoencephalopathy with Spheroids (HDLs) Detected with Single Photon Emission Computed Tomography	Neurol Clin Neurosci.,202109	Original Article
17	Shigeru Nogawa	医学部医学科内科学系脳神経内科学	A case of Endovascular treatment for in-hospital stroke with COVID-19 under protected code stroke.	Journal of Neuroendovascular Therapy,202111	Original Article
18	S. Goto	医学部医学科内科学系循環器内科学	The influence of anemia on clinical outcomes in venous thromboembolism: Results from GARFIELD-VTE	Thrombosis Research,202107	Original Article
19	Atsuhiko Yagishita	医学部医学科内科学系循環器内科学	Ablation index-guided cavotricuspid isthmus ablation with contiguous lesions using fluoroscopy integrated 3D mapping in atrial flutter	Journal of Interventional Cardiac Electrophysiology,202203	Original Article
20	Ryujiro Hara	医学部医学科内科学系血液・腫瘍内科学	The Role of Hypertension and Renin-angiotensin-aldosterone System Inhibitors in Bleomycin-induced Lung Injury.	Clinical lymphoma, myeloma & leukemia,202104	Original Article
21	Ryujiro Hara	医学部医学科内科学系血液・腫瘍内科学	A case of JAK2V617F-positive essential thrombocythemia where allele burden was reduced by a PD-1 inhibitor.	International journal of hematology,202104	Original Article
22	Atsuhiko Yagishita	医学部医学科内科学系循環器内科学	Pulmonary Artery Isolation for Polymorphic Outflow Tract Ventricular Tachycardia	Journal of American Collage of Cardiology: CASE REPORTS,202111	Original Article
23	Sho Torii	医学部医学科内科学系循環器内科学	Eruptive Calcified Nodules as a Potential Mechanism of Acute Coronary Thrombosis and Sudden Death.	J Am Coll Cardiol.,202104	Original Article
24	Hidekazu Suzuki	医学部医学科内科学系消化器内科学	Editorial: An important milestone for systematizing gastroparesis practice.	United European Gastroenterol J.,202104	Original Article
25	Akiko Ushijima	医学部医学科内科学系循環器内科学	Effects of cardiac rehabilitation on physical function and exercise capacity in elderly cardiovascular patients with frailty	Journal of Cardiology,202104	Original Article
26	Kaito Harada	医学部医学科内科学系血液・腫瘍内科学	Prognostic factors in salvage transplantation for graft failure following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	Bone Marrow Transplant.,202104	Original Article
27	Tomoaki Hama	医学部医学科内科学系循環器内科学	Effect of cardiac rehabilitation on glomerular filtration rate using serum cystatin C concentration in patients with cardiovascular disease and renal dysfunction	Journal of Cardiopulmonary Rehabilitation and Prevention,202203	Original Article
28	S. Goto	医学部医学科内科学系循環器内科学	A Patient-Level Meta-Analysis: The End of the Era of Direct Oral Anticoagulant Developmental Trials in Patients With Atrial Fibrillation?	Circulation,202201	Original Article
29	Takafumi Saito	医学部医学科内科学系循環器内科学	Impact of body mass index on the outcome of Japanese patients with cardiovascular diseases and/or risk factors hospitalized with COVID-19 infection.	J Cardiol.,202109	Original Article
30	Morisugu Kimura	医学部医学科内科学系腎・代謝内科学	A survey on the current status of ophthalmological consultations in diabetic patients undergoing maintenance hemodialysis and the effectiveness of education on consultation behavior -Experience of a single hemodialysis clinic in Japan.-	Front. Clin. Diabetes Healthc.,202201	Original Article
31	Wada Takehiko	医学部医学科内科学系腎・代謝内科学	A digest of the Evidence-Based Clinical Practice Guideline for Nephrotic Syndrome 2020	Clinical and Experimental Nephrology,202112	Original Article
32	Fuminobu Yoshimachi	医学部医学科内科学系循環器内科学	Distal radial approach treating a left main lesion during hemostasis of the forearm radial artery on the same side in a case of unstable angina	Journal of Cardiology Cases,202201	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
33	Hirota Komaba	医学部医学科内科学系腎・代謝内科学	Jury still out on whether FGF23 is a direct contributor, a useful biomarker, or neither	Kidney International,202111	Original Article
34	Junko Ajimi	医学部医学科外科学系麻酔科学	Clear plastic bags effectively limit aerosolization and droplet spray during extubation in the era of COVID-19	J Clin Anesth,202108	Original Article
35	Yusuke Tomita	医学部医学科外科学系移植外科学	CD45RA-CD25highCD127-CD4+ activated regulatory T cells are correlated with de novo donor-specific anti-HLA antibody formation after kidney transplantation in standard immunosuppression	International Immunopharmacology,202108	Original Article
36	Hirota Komaba	医学部医学科内科学系腎・代謝内科学	Old and new drugs for the management of bone disorders in CKD	Calcif Tissue Int,202104	Original Article
37	Hirota Komaba	医学部医学科内科学系腎・代謝内科学	Secondary hyperparathyroidism, weight loss, and longer-term mortality in hemodialysis patients: results from the DOPPS	J Cachexia Sarcopenia Muscle,202108	Original Article
38	Yosuke Nakagawa	医学部医学科内科学系腎・代謝内科学	Interrelationships between sclerostin, secondary hyperparathyroidism, and bone metabolism in patients on hemodialysis	J Clin Endocrinol Metab,202201	Original Article
39	Rikio Suzuki	医学部医学科内科学系血液・腫瘍内科学	Anti-tumor activity of the pan-RAF inhibitor TAK-580 in combination with KPT-330 (selinexor) in multiple myeloma	International Journal of Hematology,202202	Original Article
40	Hirota Komaba	医学部医学科内科学系腎・代謝内科学	Relapse of minimal change disease following the Pfizer-BioNTech COVID-19 vaccine	Am J Kidney Dis,202109	Original Article
41	Takato Abe	医学部医学科内科学系脳神経内科学	Multiple Cerebral Infarctions Accompanied by Subcortical and Subarachnoid Hemorrhaging in Bilateral Border Zone Areas in a Patient with Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis.	Intern Med.,202203	Original Article
42	Yoshiyasu Uchiyama	医学部医学科外科学系整形外科	Locking versus nonlocking superior plate fixations for displaced midshaft clavicle fractures: A prospective randomized trial comparing clinical and radiographic results	Journal of Orthopaedic Science,202111	Original Article
43	Akihiko Hiyama	医学部医学科外科学系整形外科	Radiographic and clinical evaluation of single-level lateral interbody fusion in patients with severe stenosis analyzed using cluster analysis	Medicine,202111	Original Article
44	Akihiko Hiyama	医学部医学科外科学系整形外科	Comparative Study of Cage Subsidence in Single-Level Lateral Lumbar Interbody Fusion	Journal of Clinical Medicine,202201	Original Article
45	Taku Ukai	医学部医学科外科学系整形外科	The anatomical features of the lateral femoral cutaneous nerve with total hip arthroplasty: a comparative study of direct anterior and anterolateral supine approaches	BMC musculoskeletal disorders,202203	Original Article
46	Akihiko Hiyama	医学部医学科外科学系整形外科	Utility of Power tool and Intraoperative Neuromonitoring for Percutaneous Pedicle Screw Placement in Single Position Surgery: A Technical Note	World neurosurgery,202110	Original Article
47	Tatsuya Umemoto	医学部医学科外科学系泌尿器科学	Effectiveness of Steroid Pulse Therapy for Systemic Side Effects after Bacillus Calmette-Guerin Intravesical Instillation Therapy: A Series of Five Cases	case report in urology,202107	Original Article
48	Akihiko Hiyama	医学部医学科外科学系整形外科	Radiographs assessment of changes in the psoas muscle at L4-L5 level after single-level lateral lumbar interbody fusion in patients with postoperative motor weakness	Journal of Clinical Neuroscience,202106	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
49	Akihiko Hiyama	医学部医学科外科学系整形外科	Analysis of cell-free circulating DNA fragment size and level in patients with lumbar canal stenosis.	JOR Spine,202111	Original Article
50	Akihiko Hiyama	医学部医学科外科学系整形外科	Correlational analysis of chemokine and inflammatory cytokine expression in the intervertebral disc and blood in patients with lumbar disc disease	Journal of Orthopaedic Research,202106	Original Article
51	Taku Ukai	医学部医学科外科学系整形外科	Comparison of periarticular multidrug injection versus epidural catheter in 55 patients undergoing total hip arthroplasty: a prospective randomized controlled trial	Orthopaedics & Traumatology: Surgery & Research,202110	Original Article
52	Kohei Kanamori	医学部医学科外科学系消化器外科	Does synchronous early head and neck cancer with esophageal cancer need treatment after preoperative chemotherapy?	General Thoracic and Cardiovascular Surgery,202203	Original Article
53	Yuka Kobayashi	医学部医学科外科学系整形外科	Using blood glucose and lactate levels for early detection of venous congestion following a free flap procedure for lower extremity open fractures	European Journal of Trauma and Emergency Surgery,202111	Original Article
54	Kanshu Cho	医学部医学科外科学系脳神経外科	Long-term Outcomes after Microsurgical Decompression of Lumbar Foraminal Stenosis and Adverse Effects of Preoperative Scoliosis: A Prospective Cohort Study	Neurologia Medico Chirurgica,202110	Original Article
55	Tatsuya Otaki	医学部医学科外科学系腎泌尿器科学	Clinical impact of psoas muscle volume on the development of inguinal hernia after robot-assisted radical prostatectomy	Surgical Endoscopy,202107	Original Article
56	Masaaki Imai	医学部医学科外科学系脳神経外科	Possibility of arterial spin labeling perfusion magnetic resonance imaging sequences with steroid therapy for Tolosa-Hunt syndrome: A case report and review of literature	Surgical neurology international,202201	Original Article
57	Toru Hanamura	医学部医学科外科学系乳腺・腫瘍科学	Secreted indicators of androgen receptor activity in breast cancer pre-clinical models	Breast Cancer Research,202111	Original Article
58	Yoichi Nonaka	医学部医学科外科学系脳神経外科	Gross total resection of a recurrent cavernous sinus meningioma through a combined transzygomatic transcavernous and extended middle fossa approach with cavernous carotid denudation.	J Neurol Surg B Skull Base Skull Base: Operative videos,202105	Original Article
59	Toshihiko Watanabe	医学部医学科外科学系小児外科学	Predicting viability of ischemic small bowel using intraoperative indocyanine green fluorescence angiography	Journal of Pediatric Surgery Case Reports,202202	Original Article
60	Taku Ukai	医学部医学科外科学系整形外科	Comparison of properties determined using electromechanical assessment (Arthro-BST) with macroscopic and histological properties in symptomatic human articular cartilage of the hip	Arthritis Reseach & Therapy,202109	Original Article
61	Akihiko Hiyama	医学部医学科外科学系整形外科	The combination of intraoperative CT navigation and C-arm fluoroscopy for INFIX and percutaneous TITS screw placement in the treatment of pelvic ring injury: technical note.	Journal of orthopaedic surgery and research,202201	Original Article
62	Akihiko Hiyama	医学部医学科外科学系整形外科	Accuracy of Percutaneous Pedicle Screw Placement after Single-Position versus Dual-Position Insertion for Lateral Interbody Fusion and Pedicle Screw Fixation Using Fluoroscopy	Asian Spine Journal,202202	Original Article
63	Sunao Shoji	医学部医学科外科学系腎泌尿器科学	Editorial Comment to Combination therapy with radiation and hyperthermia-induced clinical complete response of small cell carcinoma of prostate	IJU Case Reports,202203	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
64	Tatsuya Umemoto	医学部医学科外科学系腎泌尿器科学	Bacillus Calmette-Guerin Perfusion Treatment via Cutaneous Ureterostomy for Carcinoma in Situ of the Upper Urinary Tract	The Open Urology & Nephrology Journal,202107	Original Article
65	Yasunori Cho	医学部医学科外科学系心臓血管外科学	Non-heart transplant surgical approaches with mitral valve operation and surgical ventricular reconstruction for non-ischaemic dilated cardiomyopathy: a Japanese multicenter study	General Thoracic and Cardiovascular Surgery,202104	Original Article
66	Sunao Shoji	医学部医学科外科学系腎泌尿器科学	Analysis of oncological outcomes of whole-gland therapy with high-intensity focused ultrasound for localized prostate cancer in clinical and technical aspects: a retrospective consecutive case-series analysis with a median 5-year follow-up	INTERNATIONAL JOURNAL OF HYPERTHERMIA,202108	Original Article
67	Akihiko Hiyama	医学部医学科外科学系整形外科科学	Intraoperative computed tomography-guided navigation versus fluoroscopy for single-position surgery after lateral lumbar interbody fusion	Journal of Clinical Neuroscience,202109	Original Article
68	Izumi Hanada	医学部医学科外科学系腎泌尿器科学	Significant Impact of the Anterior Transition Zone Portion Treatment on Urinary Function After Focal Therapy with High-Intensity Focused Ultrasound for Prostate Cancer	Journal of Endourology,202107	Original Article
69	Banri Tsuda	医学部医学科外科学系乳腺・腫瘍科学	Introducing a Remote Pre-graduate Medical Education Curriculum Planning Workshop During the COVID-19 Pandemic	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine,202106	Original Article
70	Kohei Kanamori	医学部医学科外科学系消化器外科学	Small bowel obstruction caused by a true ileo-ileal knot: a rare case successfully treated by prior ligation of mesenteric vessels	Surgical Case Reports,202108	Original Article
71	Kanshu Cho	医学部医学科外科学系脳神経外科学	Hypothesis on the pathophysiology of syringomyelia based on analysis of phase-contrast magnetic resonance imaging of Chiari-I malformation patients	F1000Research,202110	Original Article
72	Soichiro Yuzuriha	医学部医学科外科学系腎泌尿器科学	Effects of psoas major muscle volume in predicting the prognosis of patients with upper urinary tract urothelial carcinoma treated with radical nephroureterectomy	Japanese Journal of Clinical Oncology,202111	Original Article
73	Taro Mashiko	医学部医学科外科学系消化器外科学	Significance of pulmonary resection in patients with metachronous pulmonary metastasis from pancreatic ductal adenocarcinoma: a retrospective cohort study	BMC Surg.,202105	Original Article
74	Katsuya Yokoyama	医学部医学科外科学系整形外科科学	Effect of nutritional status before femoral neck fracture surgery on postoperative outcomes: a retrospective study	BMC Musculoskeletal Disorders,202112	Original Article
75	Akihiko Hiyama	医学部医学科外科学系整形外科科学	Effects of preoperative sagittal spinal imbalance on pain after lateral lumbar interbody fusion	Scientific Reports,202202	Original Article
76	Masaaki Imai	医学部医学科外科学系脳神経外科学	Hyperintense posterior cerebral artery sign in patients with reversible cerebral vasoconstriction syndrome	Surgical Neurology International,202111	Original Article
77	Tatsuya Nogami	医学部医学科専門診療学系漢方医学	Comparison of the 2011 and 2019 Kampo Medicine Curricula Across All Japanese Medical Schools	The Tokai journal experimental and clinical medicine,202106	Original Article
78	Kousuke Saitou	医学部医学科専門診療学系耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Gardner syndrome with odontogenic sinusitis: A case report	Clinical Case Reports,202106	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
79	Hiroaki Iijima	医学部医学科専門診療学系耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	A p16 Positive M1 Oral Tongue Cancer Completely Responsive to the EXTREME Regimen: A Case Report	The Tokai journal of experimental and clinical medicine,202107	Original Article
80	Tadashi Higuchi	医学部医学科外科学系消化器外科学	Clinical impacts of magnetic resonance thoracic ductography on preventing postoperative chylothorax after thoracoscopic esophagectomy for esophageal cancer	Esophagus,202110	Original Article
81	Hiroko Machida	医学部医学科専門診療学系産婦人科学	Surgical approach in early stage cervical cancer: the Asian view point.	Eur. J. Gynaecol.,202202	Original Article
82	Koji Ebisumoto	医学部医学科専門診療学系耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Tumor detection with transoral use of flexible endoscopy for unknown primary head and neck cancer.	Laryngoscope Investig Otolaryngol,202110	Original Article
83	Daisuke Maki	医学部医学科専門診療学系耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Immunohistochemical marker expression in temporal bone squamous cell carcinoma	Tokai J Exp Clin Med,202107	Original Article
84	Masae Ikeda	医学部医学科専門診療学系産婦人科学	Pyogenic Spondylitis in Multidisciplinary Therapies of Gynecologic Malignancies: Three Cases Reports	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine,202107	Original Article
85	Kousuke Saitou	医学部医学科専門診療学系耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Computed Tomography to Diagnose Paranasal Sinus Chemical Burns and Tissue Damage: A Case Report.	Laryngoscope,202106	Original Article
86	Toshiaki Furukawa	医学部医学科専門診療学系リハビリテーション科学	Effects of Low-frequency Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation on Focal Hand Dystonia: A Case Report	Tokai J Exp Clin Med,202104	Original Article
87	Hiroko Machida	医学部医学科専門診療学系産婦人科学	Significance of histology and nodal status on the survival of women with early-stage cervical cancer: validation of the 2018 FIGO cervical cancer staging system.	J Gynecol Oncol.,202203	Original Article
88	Hiroko Machida	医学部医学科専門診療学系産婦人科学	Association between hospital treatment volume and survival of women with gynecologic malignancy in Japan: a JSOG tumor registry-based data extraction study.	J Gynecol Oncol.,202201	Original Article
89	Tatsuya Nogami	医学部医学科専門診療学系漢方医学	Kampo Medicine for Older People: A Review	OBM Geriatrics,202203	Original Article
90	Toshiki Kazama	医学部医学科専門診療学系画像診断学	Breast Cancer Subtypes and Quantitative Magnetic Resonance Imaging: A Systemic Review	Life (Basel),202203	Original Article
91	Takashi Kasahara	医学部医学科専門診療学系リハビリテーション科学	A case of MuSK antibody-positive myasthenia gravis patient mimicking amyotrophic lateral sclerosis with four videofluoroscopic examinations	Oral Science International,202104	Original Article
92	Daisuke Maki	医学部医学科専門診療学系耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Syphilis resembling human papillomavirus-associated oropharyngeal cancer: A case report and literature review of recent incidence trends.	J Laryngol Otol.,202201	Original Article
93	Asuka Tsuchiya	医学部医学科総合診療学系救命救急医学	JPN clinical practice guidelines 2021 with easy-to-understand explanations for the management of acute pancreatitis	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences,202112	Original Article
94	Nana Urata	医学部医学科総合診療学系健康管理学	Effects of BMI changes over two years on lifestyle-related diseases	Health Evaluation and Promotion,202107	Original Article
95	Makoto Arai	医学部医学科専門診療学系漢方医学	Analysis of treatment with Astragalus Membranaceus powder in patients with chronic kidney disease	International Medical Journal,202106	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
96	Shoji Kaneda	医学部医学科専門診療学系耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Red ear syndrome presented as vestibular migraine: A case study and review of the literature	The Journal of Laryngology and Otolology,202110	Original Article
97	Terumitsu Hasebe	医学部医学科専門診療学系画像診断学	Comparative performance analysis of interventional devices for the treatment of ischemic disease in below-the-knee lesions: a systematic review and meta-analysis	Cardiovascular Intervention and Therapeutics,202201	Original Article
98	Makoto Arai	医学部医学科専門診療学系漢方医学	Changes in Japanese Medical Students' Attitudes Toward Traditional Japanese Medicine over the Course of Medical School	Tokai J Exp Clin Med,202106	Original Article
99	Hiroimi Onouchi	医学部医学科専門診療学系眼科学	Anatomical Changes in the Anterior Chamber Volume After Descemet Membrane Endothelial Keratoplasty	Cornea,202106	Original Article
100	Toshiaki Furukawa	医学部医学科専門診療学系リハビリテーション科学	Changes in Sonoelastography After Using Botulinum Toxin Type A for the Treatment of the Patients with Post-stroke Spasticity:Report of 2 Cases	Tokai J Exp Clin Med,202106	Original Article
101	Tadashi Higuchi	医学部医学科外科学系消化器外科学	Usefulness of prone-position computed tomography as preoperative simulation prior to thoroscopic esophagectomy for thoracic esophageal cancer	Esophagus,202110	Original Article
102	Masae Ikeda	医学部医学科専門診療学系産婦人科学	Association of menopause, aging and treatment procedures with positive margins after therapeutic cervical conization for CIN 3: a retrospective study of 8,856 patients by the Japan Society of Obstetrics and Gynecology	Journal of Gynecologic Oncology (J Gynecol Oncol.),202104	Original Article
103	Takayuki Aoki	医学部医学科専門診療学系口腔外科学	Quality of life of Japanese elderly oral cancer patients during the perioperative period	International Journal of Oral and Maxillofacial Surgery,202109	Original Article
104	Kenji Okami	医学部医学科専門診療学系耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Unusual Complication of Nasal Irrigation: Three Case Reports of Nasal Septal Perforation.	Tokai J Exp Clin Med.,202107	Original Article
105	Daisuke Toyama	医学部医学科総合診療学系小児科学	Myelodysplastic syndrome in a patient with IPEX syndrome	J Clin Immunol,202104	Original Article
106	Shohei Yamamoto	医学部医学科総合診療学系小児科学	Prognostic value of the revised International Prognostic Scoring System five-group cytogenetic abnormalities classification for predicting the outcome of hematopoietic stem cell transplantation in pediatric myelodysplastic syndrome: JSHCT Pediatric MDS Working Group study.	Bone Marrow Transplant,202104	Original Article
107	Asuka Tsuchiya	医学部医学科総合診療学系救命救急医学	The Japanese Clinical Practice Guidelines for Management of Sepsis and Septic Shock 2020 (J-SSCG 2020)	Journal of Intensive Care,202108	Original Article
108	Asuka Tsuchiya	医学部医学科総合診療学系救命救急医学	Introduction to Time-dependent Confounders and Marginal Structural Models	Annals of Clinical Epidemiology,202104	Original Article
109	Tooru Ishihara	医学部医学科総合診療学系総合内科学	Fusobacterium necrophorum pelvic peritonitis and bacteremia mimicking intestinal necrosis	IDCases,202104	Original Article
110	Sachio Fujita	医学部医学科総合診療学系小児科学	Successful combination chemotherapy involving clofarabine, cyclophosphamide, and etoposide for pediatric relapsed acute myeloid leukemia: A case report	SAGE Open Med Case Rep,202104	Original Article
111	Chizumi Yamada	医学部医学科総合診療学系健康管理学	Survey of job stress and burnout among employees of various occupations at a COVID-19-dedicated hospital.	Environ Occup Health Practice,202112	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
112	Asuka Tsuchiya	医学部医学科総合診療学系救命救急医学	Long-term Functional Outcomes, Quality of Life, and Patient Trajectory in Trauma Survivors: A Study Protocol	Annals of Clinical Epidemiology,202104	Original Article
113	Asuka Tsuchiya	医学部医学科総合診療学系救命救急医学	Dexmedetomidine use and mortality in mechanically ventilated patients with severe burns: A cohort study using a national inpatient database in Japan	Burns,202111	Original Article
114	Asuka Tsuchiya	医学部医学科総合診療学系救命救急医学	The Japanese Clinical Practice Guidelines for Management of Sepsis and Septic Shock 2020 (J-SSCG 2020).	Acute Medicine & Surgery,202108	Original Article
115	Kengo Moriyama	医学部医学科総合診療学系健康管理学	Usefulness of triglyceride to high-density lipoprotein ratio and alanine aminotransferase for predicting insulin resistance and metabolic syndrome in the Japanese population	Metab Syndr Relat Disord,202104	Original Article
116	Asuka Tsuchiya	医学部医学科総合診療学系救命救急医学	Validity of a model using routinely collected data for identifying infections following gastric, colon, and liver cancer surgeries	Pharmacoepidemiology and Drug Safety,202111	Original Article
117	Kota Hirai	医学部医学科総合診療学系小児科学	A new method for objectively evaluating nocturnal cough in adults	Respiratory Investigation,202201	Original Article
118	Hiroyuki Otsuka	医学部医学科総合診療学系救命救急医学	Is resuscitative endovascular balloon occlusion of the aorta for CT diagnosis feasible or not? A Japanese single-center, retrospective, observational study	The journal of trauma and acute care surgery,202104	Original Article
119	Jin Imai	医学部医学科総合診療学系健康管理学	The pathogenic oral-gut-liver axis: new understandings and clinical implications	Expert Review of Clinical Immunology,202107	Original Article
120	Natsuru Watanabe	医学部医学科総合診療学系精神科学	Effect of gut microbiota early in life on aggressive behavior in mice	Neuroscience Research,202107	Original Article
121	Jin Imai	医学部医学科総合診療学系健康管理学	A potential pathogenic association between periodontal disease and Crohn's disease	JCI insight,202111	Original Article
122	Jin Imai	医学部医学科総合診療学系健康管理学	Primary Sclerosing Cholangitis Complicated with Aphthoid Colitis Difficult to Diagnose from IgG4-Related Sclerosing Cholangitis	Case Reports in Gastroenterology,202201	Original Article
123	Asuka Tsuchiya	医学部医学科総合診療学系救命救急医学	Application of causal inference methods in the analysis of observational neurosurgical data: g-formula and marginal structural model	World Neurosurgery,202109	Original Article
124	Toshio Nakagohri	医学部医学科外科学系消化器外科学	Comparison of gemcitabine-based chemotherapies for advanced biliary tract cancers by renal function: an exploratory analysis of JCOG1113	Sci Rep.,202106	Original Article
125	Madoka Nito	医学部医学科外科学系呼吸器外科学	Par3 and ZO-1 Membrane Clustering is an Indicator of Poor Prognosis in Lung Squamous Cell Carcinoma.	Tokai J Exp Clin Med.,202106	Original Article
126	Kengo Ayabe	医学部医学科内科学系循環器内科学	Clinical Significance of the Head-Up Tilt Test in Improving Prognosis in Patients with Possible Neurally Mediated Syncope	biology(MDPI),202109	Original Article

計126件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
3	「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。				
4	「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。				
5	「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること (出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。 記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)				
6	「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。				

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 東海大学医学部「人を対象とする生命科学・医学系研究」に関する審査規程、東海大学医学部「人を対象とする生命科学・医学系研究」に関する審査細則、東海大学医学部「人を対象とする生命科学・医学系研究」に関する実施要項、において、委員会、申請、審査、実施許可等について記載している。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	定例 年12回・迅速 年24回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 ・ 学校法人東海大学利益相反に関する規定 ・ 学校法人利益相反ポリシー ・ 東海大学policy・working・meeting伊勢原利益相反マネジメント委員会規定	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 ・ 一般社団法人厚生研究推進協会 (APRIN) が提供するAPRINeラーニングにより実施している。	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各研修領域の研修プログラムに沿い、到達目標の達成を目指し、専門医取得に向けた臨床研修を実施。

2 研修の実績

研修医の人数	116 人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
小澤 秀樹	総合内科	教授	36 年	
深川 雅史	腎内分泌代謝内科	教授	39 年	
山本 聖一郎	消化器外科	教授	31 年	
松前 光紀	脳神経外科	教授	40 年	
渡辺 雅彦	整形外科	教授	35 年	
赤松 正	形成外科	教授	32 年	
河村 好章	腎泌尿器科	講師	21 年	
鈴木 武志	麻酔科	教授	24 年	
中川 儀英	救命救急科	教授	35 年	
山田 佳之	小児科	教授	26 年	
平澤 猛	産婦人科	准教授	31 年	
山本 賢司	精神科	教授	32 年	
馬淵 智生	皮膚科	教授	23 年	
大上 研二	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	36 年	
鈴木 康之	眼科	教授	36 年	
正門 由久	リハビリテーション科	教授	40 年	
橋本 順	画像診断科	教授	34 年	
中村 直哉	病理診断科	教授	37 年	
宮地 勇人	臨床検査科	教授	40 年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<p>【認定静脈注射看護師講習会】</p> <ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 静脈注射を単独で施行できる看護師の育成・研修の期間・実施回数・参加人数 1回目：2021年 5月 15日（36名） 2回目：2021年 7月 17日（37名）
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<p>【チームリーダーを担う人のための研修】</p> <ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 組織におけるリーダーの役割を学ぶ。現場の業務に潜在している危険を予測する能力を高める・研修の期間・実施回数・参加人数 2021年10月 6日（43名） ★オンライン研修 <p>【主任就任時研修】</p> <ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 主任としての役割と責任（看護単位責任者の補佐・代行業務）について学ぶ・研修の期間・実施回数・参加人数 2021年 5月12日（5名） <p>【副主任就任時研修】</p> <ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 副主任として、看護管理に求められる基本的な知識・技術・態度について学ぶ・研修の期間・実施回数・参加人数 2021年 5月24日（9名） <p>【看護単位責任者研修（リフレッシュ研修）】</p> <ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 看護単位責任者としての役割や業務遂行に必要な能力開発・研修の期間・実施回数・参加人数 2022年3月10日、3月24日、3月31日（38名） ★オンライン研修

【主任研修（リフレッシュ研修）】

・研修の主な内容

主任としての役割や業務遂行に必要な能力開発

・研修の期間・実施回数・参加人数

2021年度 実施なし

【副主任研修（リフレッシュ研修）】

・研修の主な内容

副主任としての役割や業務遂行に必要な能力開発

・研修の期間・実施回数・参加人数

2021年11月22日・11月24日（77名）

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・オープンセミナー

- | | |
|--------------------|------------------------------|
| ① 2021年 7月30日（7名） | 慢性疾患を抱える患者とリーダーとしての看護の視点 |
| ② 2021年 8月 6日（6名） | 遺伝看護セミナー |
| ③ 2021年 9月 3日（3名） | 感染制御は疫学的視点から ※オンライン研修 |
| ④ 2021年 9月17日（8名） | 侵襲 PSDIS・せん妄 小児看護 I ※オンライン研修 |
| ⑤ 2021年 9月24日（6名） | 家族看護 ※オンライン開催 |
| ⑥ 2021年10月 7日（5名） | がん看護 基礎 I、II |
| ⑦ 2021年10月15日（8名） | 創傷ケア I・II |
| ⑧ 2021年11月 5日（10名） | 慢性疾患を抱えて生活する患者の看護と療養支援 |
| ⑨ 2021年11月12日（4名） | 失禁ケア |
| ⑩ 2021年12月 2日（6名） | がん性疼痛・緩和ケア |
| ⑪ 2022年 1月14日（3名） | 精神看護・病態 II |

・気づきコース・ICLS コース

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ① 2021年11月 6日（14名） | 患者急変対応・気づきコース |
| ② 2022年 3月19日（3名） | 患者急変対応・気づきコース |
| ③ 2021年 7月24日（11名） | ICLS コース |
| ④ 2021年11月14日（8名） | ICLS 指導者養成ワークショップ |

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	原 義徳 (病院運営企画室セネラルマネージャー)、 小川吉明 (病院運営企画室 (情報システム) セネラルマネージャー)
管理担当者氏名	桑久保ひとみ (総務ユニットマネージャー)、鈴木政智 (診療情報・システムユニットマネージャー)

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務ユニット	
		各科診療日誌	総務ユニット	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	診療情報・システムユニット (システムユニットサーバー室)	
		看護記録	診療情報・システムユニット (システムユニットサーバー室)	
		検査所見記録	診療情報・システムユニット (システムユニットサーバー室)	
		エックス線写真	診療情報・システムユニット (システムユニットサーバー室)	
		紹介状	診療情報・システムユニット (システムユニットサーバー室)	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療情報・システムユニット (システムユニットサーバー室)	
		紙媒体で発生したものは電子カルテにスキャナ読み取りを行い、認証局のタイムスタンプ/電子署名により電磁的記録を原本として管理する (サーバー室管理)。 スキャナ読み取り後の原紙の管理は病院運営企画室 (診療情報・システムユニット) で一定期間保管後廃棄。現物の手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真 (画像データ)、紹介状、退院時要約、入院診療計画書の管理については、別紙参照		
病院の管理及び運営に関する諸記録	掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事ユニット	
		高度の医療の提供の実績	医事・健診ユニット、臨床研修部、総務ユニット	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	キャンパスサポートオフィス (評価担当)、メディカルサイエンスカレッジオフィス研究支援ユニット	
		高度の医療の研修の実績	臨床研修部	
		閲覧実績	総務ユニット、診療情報・システムユニット	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携室	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	総務ユニット 薬剤部	
	規則第一條の十一第	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理課	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理課	
				データベース管理
				紙保管、データベース管理
		データベース管理		
		紙保管、データベース管理		
		紙保管、データベース管理		
		紙保管、データベース管理		
		紙保管、データベース管理		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	院内感染対策室
	第二条	院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策室
	第三号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	院内感染対策室
	第四号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染対策室
	第五号	医薬品安全管理責任者の配置状況	医薬品安全管理室
	第六号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 医薬品安全管理室
	第七号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部 医薬品安全管理室
	第八号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部 医薬品安全管理室
	第九号	医療機器安全管理責任者の配置状況	医療機器安全対策室
	第十号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器安全対策室 医療機器整備室 当該部署
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器安全管理室 当該部署
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療機器安全管理室 医療機器整備室

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全対策課	紙保管、データベース管理
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室	紙保管、データベース管理
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医薬品安全管理室	紙保管、データベース管理
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報・システムユニット (システムユニットサーバー室)	紙媒体で発生したものは電子カルテにスキャナ読み取りを行い、認証局のタイムスタンプ/電子署名により電磁的記録を原本として管理する
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報・システムユニット	
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全対策課	紙保管、データベース管理
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療監査部	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医薬品安全管理室 医療機器安全管理室	紙保管、データベース管理 紙保管、データベース管理
		監査委員会の設置状況	医療監査部	紙保管、データベース管理
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全対策課	紙保管、データベース管理
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全対策課	紙保管、データベース管理
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全調査課 総合相談室	紙保管、データベース管理
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全対策課	紙保管、データベース管理
		職員研修の実施状況	医療安全対策課	紙保管、データベース管理
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療監査部	紙保管、データベース管理
		管理者が有する権限に関する状況	経営企画ユニット	紙保管、データベース管理
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	経営企画ユニット	紙保管、データベース管理		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	経営企画ユニット	紙保管、データベース管理		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

診療に関する諸記録（現物）－診療記録・情報管理規程より抜粋

（手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係わる入院期間の診療経過の要約及び入院診療計画書）

1. 診療記録（エックス線写真含む）の保管期間（電子化以前分）

（1） 外来カルテ : 診療の完結の日から5年間とする。

（2） 入院カルテ : 診療の完結の日から5年間とする。

※ただし、次に該当する記録は長期保管対象とする。

- ① 治験症例
- ② 特定生物由来製品使用症例
- ③ 損害賠償請求に関わる症例
- ④ 特定不妊治療費助成事業に関わる症例
- ⑤ 臓器等移植症例
- ⑥ 先天異常症例
- ⑦ B型・C型肝炎症例
- ⑧ 照射録
- ⑨ 産科記録
- ⑩ その他病院長が認めた症例

（3） X線フィルム : 1のただしに規定する長期保管分のみ

2. 診療記録（電子化以前分）の保管方法

（1） 外来カルテ : 全科1フォルダーの患者ID番号ターミナルディジット分類保管とする。

（2） 入院カルテ : 1入退院毎製本し患者IDターミナルディジット分類による分類保管とする。

（3） X線フィルム: 患者ID番号ターミナルディジット分類による大袋保管とする。

3. 上記の診療に関する諸記録は、外来診療、入院診療、医学研究等を目的として、院内で閲覧及び借り出すことはできるが、院外へ持ち出すことはできない。

以上

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="radio"/> 2. 現状 <input checked="" type="radio"/>
閲覧責任者氏名	原 義徳(ゼネラルマネージャー) 鈴木 政智(診療情報・システムユニットMGR)
閲覧担当者氏名	鈴木 政智(診療情報・システムユニットMGR) 桑久保 ひとみ(総務ユニットMGR)
閲覧の求めに応じる場所	会議室、診療情報・システムユニットカルテ室、 診療録開示室等
閲覧の手続の概要 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧 病院宛若しくは病院長宛の文書依頼に基づき、病院長が承認した内容について、閲覧場所を定めて個別対応を行う。閲覧時は、病院職員立会のもと実施する。 公的監査における診療録の閲覧 指定を受けた記録について、該当記録・書類を紙出力し、病院職員立会の下開示する。カルテレビュー形式で閲覧する場合は、診療情報システムユニットに依頼し、会議室に電子カルテ閲覧の環境を設置する。病院職員が操作し、指定の記録、あるいは診療内容について開示する。 医療スタッフの閲覧については「診療記録・情報管理規程」に基づき手続きを行う。患者側からの個人情報開示の請求があった場合は、「個人情報開示・訂正等運用細則」に基づき手続きを行う。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	806	件
閲覧者別	医師 ※	延	806 件
	歯科医師	延	件
	国	延	件
	地方公共団体	延	件

※電子カルテの閲覧件数は集計不可。昨年度、旧紙カルテを閲覧貸出した件数。

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>1. 当院における安全管理に関する基本的考え方 私たち教職員は、全ての行為に対して常に適度な緊張感を持ち、危機管理意識を維持し、安全な医療サービスを提供できるよう努める。</p> <p>2. 医療安全管理委員会および当院の組織に関する基本的事項</p> <p>(1) 医療に係る医療安全管理体制の確保及び推進を図るため、医療安全管理委員会を設置し、医療安全管理委員会の総括の下に、特定な事項を検討するため、各種の委員会を置き、詳細な運用に関しては別に定める。 また、院内感染対策、医薬品、医療機器、診療記録等、高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等、医療放射線の安全管理体制の確保については、院内感染防止対策委員会、医薬品安全管理委員会、医療機器安全管理委員会、診療記録等監査委員会、高難度新規医療技術評価委員会、未承認新規医薬品等評価委員会、医療放射線安全管理委員会と連携する。</p> <p>(2) 医療に係る安全管理を行う部門として、医療監査部（医療安全対策課・医療安全調査課・院内感染対策室・放射線治療品質管理室・医薬品安全管理室・臨床研究監査室・医療機器安全管理室・医療放射線安全管理室）を置く。</p> <p>(3) 副院長（医療安全担当）を医療安全管理責任者として配置し、医療監査部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する。</p> <p>(4) 医療安全に係る企画立案・評価・職員の安全管理に関する意識の向上等組織横断的に指導するため専従医療安全管理者（看護師）及び医療安全専従薬剤師を医療安全対策課及び医薬品安全管理室に配置する。</p> <p>3. 職員に対する医療に係る安全管理のための研修に関する基本方針 職員に対する医療に係る安全管理のための研修を「医療安全・感染防止セミナー」と位置づけ全教職員に対して、以下の研修を実施し、研修実施後の学習効果測定を実施する。 なお、新規採用者、異動者、出向終了者、育児休業・産休から復帰した者及び臨床研修医に対する研修は別途実施する。</p> <p>(1) 医療安全に関する事項 (2) 感染防止対策に関する事項 (3) 医薬品関連に関する事項 (4) 医療機器関連に関する事項 (5) 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等に関する事項 (6) 診療用放射線に関する事項 (7) 相互立入り、監査委員会からの意見に関する事項 (8) その他重大な事象が発生した事項</p> <p>4. 当院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</p> <p>(1) インシデント／アクシデント・合併症が発生した場合は、速やかにインシデント情報登録システム（EMI）に必要な事項を入力し、医療監査部へレポートを提出する。提出されたレポートが診療録及び看護記録に基づき記載されているかを専従医療安全管理者が検証する。</p> <p>(2) 医療監査部で検証・分析したアクシデント（レベル3b以上）事例、合併症事例について病院長へ速やかに報告し、医療安全管理委員会にて検討する。</p> <p>(3) 重要と思われるレポートについては、レポート・事例検討会で検証し、医療安全管理委員会に諮る。さらに、対策が必要な事象については、RCA（根本原因分析）或いは調査委員会にて検証する。</p>	

5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針

当該者の健康回復に全力を尽くすことを優先し、可及的速やかに上司に連絡し指導を仰ぎ、必要に応じて院内に緊急情報を発信し処置を行なう十分な人員を確保する。

その後、当該者や家族に説明する際は、言い訳や憶測を避け、事故の事実関係をできるだけわかりやすく、正確に説明する。さらに、重要事象は、原則として24時間以内に事故調査委員会を立ちあげ、事実関係をできるだけ正確かつ時系列に整理する。

6. 医療従事者と患者との間の情報共有に関する基本方針

(患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む)

医療安全対策マニュアルは、当院のホームページ及び病院情報システム端末に掲載し、いつでも情報が取得できる環境を構築し公開する。

また、患者からの医療の安全管理及び安全対策等についての質問等があれば積極的に情報を開示する。

7. 患者からの相談への対応に関する基本方針

患者・家族からの相談に適切に応じる体制を確保するために、総合相談室に相談窓口を設置し、安全管理体制の確保について、関係部署に改善等の指導をする。

8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針

- (1) 各部署にリスクマネージャーを配置し、医療安全管理委員会で決定した医療安全に係る事項を所属員へ周知させる。
また、安全情報としてセイフティ・トピックスの発行並びに各種ガイドラインの策定を行い教職員に周知する。
- (2) 病院の医療安全管理業務が病院長の下で、適切に実施されているか等について、東海大学医学部付属病院医療安全管理業務監査委員会による監査を受ける。
- (3) 高難度新規医療技術の提供、未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否等を決定する部門を医療監査部内に置き、その適否については、高難度新規医療技術評価委員会、未承認新規医薬品等評価委員会の要綱に基づき審査し、病院長が決定する。高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合には、関係学会から示される「高難度新規医療技術の導入を検討するに当たっての基本的な考え方」やガイドライン等を参考に実施する。
- (4) 他の特定機能病院の管理者との連携による相互立入りを実施し、技術的助言等を受ける。

② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況

- ・ 設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 開催状況：年12回
- ・ 活動の主な内容：

1. 委員構成 (委員：38名、事務局：3名、オブザーバー：1名)

医療監査部長 (委員長)、医療安全専従医師、専従医療安全管理者、医療監査部次長、院内感染対策室、専任院内感染対策責任者、放射線治療品質管理室、医薬品安全管理室、医薬品安全管理責任者、医療安全専従薬剤師、臨床研究監査室、医療機器安全管理室 (医療安全専任技師)、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理室 (医療安全専任技師)、医療放射線安全管理責任者、医師 (内科学系・外科学系・専門診療学系・総合診療学系)、臨床研修部、診療技術部、薬剤部、看護部、褥瘡対策委員会委員長、事務 (伊勢原総務課、伊勢原用度管理課、医療安全調査課、医事課、診療情報管理課)

2. 医療安全管理委員会の開催状況

実施：令和3年4月12日、令和3年5月10日、令和3年6月14日、令和3年7月12日、
令和3年8月10日、令和3年9月13日、令和3年10月11日、令和3年11月8日、
令和3年12月13日、令和4年1月11日、令和4年2月14日、令和4年3月14日

3. 主な内容

- (1) 提出されたインシデント／アクシデントレポートの検討
- (2) 医療に係る医療安全の諸規程の整備
- (3) 重大な問題が発生した事象に対する事故調査委員会の設置
- (4) 重要な対策が必要な事象に対する「RCA（根本原因分析）検討会」の実施
- (5) 医療安全・感染防止セミナーの企画、実施及びセイフティ・トピックスの発行
- (6) 職員研修実施後の学習効果測定の実施
- (7) 医療安全対策チーム設置の検討
- (8) 東海大学医学部附属病院群への医療安全に関する周知事項の審議
- (9) リスクマネージャー会で検討する事項の審議及びリスクマネージャー会の実施
- (10) 医療安全対策マニュアル及び医療安全基本マニュアル（携帯版）の策定
- (11) 医療安全月間の企画
- (12) 院内感染防止対策委員会、医薬品安全管理委員会、医療機器安全管理委員会、診療記録等監査委員会、高難度新規医療技術評価委員会、未承認新規医薬品等評価委員会、医療放射線安全管理委員会等で策定される、院内感染対策、医薬品、医療機器、診療記録等、高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等、医療放射線の安全管理体制について連携する。
- (13) 厚生労働省への提出事象の分類
- (14) 厚生労働省への医療機器に関する提言事象の抽出
- (15) 前各号に掲げたもののほか委員長が必要と認めた事項

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年 3 回

・ 研修

医療安全・感染防止セミナー：全3回
(DVD視聴による医療安全・感染防止セミナー：全12回)

・ 研修の内容（すべて）：

1. 医療安全の日セミナー（医療安全の日webセミナー）：令和3年4月9日（6月7日～8月31日）
「新型コロナウイルス感染症の一年間の総括と今後の備え」
「謝罪 ～医療事故被害者の望み～」
2. 上半期医療安全・感染防止セミナー：令和3年9月1日～令和4年3月31日
「麻薬の安全管理について」
「インスリン療法による入院糖尿病患者の血糖管理」
「安全なオンラインツール取り扱いのために」
「抗菌薬適正使用の現状と課題」
「COVID-19の現状と対策」
3. 下半期医療安全・感染防止セミナー：令和3年12月1日～令和4年3月31日
「放射線を知るための基礎知識（2）」
「個人情報の取り扱いについて2021」
「悪質クレマーへの対応」
「医療機器の安全使用について」
「バンコマイシンTDMの新時代到来」
「O株について」

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

1. 各年度のレポート報告提出枚数

1) 令和元年度：5,576枚 2) 令和2年度：5,311枚 3) 令和3年度：5,918枚

2. 発生した事故等の医療安全管理委員会への報告

インシデント／アクシデント・合併症レポートは専従医療安全管理者がレポート取り扱い基準に従ってレポート内容の確認を行い、月別アクシデント・合併症レポート一覧表を作成している。医療監査部で一覧表事例の分析及び検証を行い、結果について医療安全管理委員会へ報告を行っている。また、アクシデント（レベル3b以上）・合併症事例、重大事象につながりそうな事例は病院長へ速やかに報告し、対応を検討、特に重要な事象はレポート・事例検討会に諮り、レポート・事例検討会で検討された対策案等を医療安全管理委員会へ具申している。

3. 事故等の収集・分析による組織としての改善策の企画立案及びその実施状況の評価と情報の共有

- (1) 月別にインシデント／アクシデントレポートを各事象（CV関連、気道関連、ドレーン関連、化学療法関連、医療機器関連、転倒・転落関連、医薬品関連）ごとに統計・解析し、医療安全管理委員会で審議し病院運営会議に諮り、各種会議体（診療科長会、病院運営連絡会、RM会）、セミナー等で注意を喚起している。
- (2) レポート・事例検討会で提案された対策案等を医療安全管理委員会で審議し、さらに検討・対策が必要な事象は、根本原因分析（RCA）、各分野の医療安全対策チーム（気道安全管理、CVC、ドレーン・チューブ類、転倒転落、肺血栓塞栓症、抗血栓薬、予期せぬ急変、救急カート運用、身体抑制・自己抜去防止、患者誤認防止）で対策案等を検討している。
- (3) 上記で検討された対策案等は、各種会議体（病院運営会議、診療科長会、病院運営連絡会、RM会）、セミナー、セイフティ・トピックス等で周知している。

4. 重大医療事故発生時の病院管理者への報告及び再発防止策（背景要因・根本原因分析）

- (1) 重大な医療事故が発生した場合は、手順に従い、速やかに病院長に報告する。また、インシデント／アクシデントレポートとは別に、時系列の報告書（事例報告書）を24時間以内に提出させ、病院長へ報告している。
- (2) 事象に応じて、根本原因分析（RCA）、事故調査委員会、事故検証委員会、事故外部評価委員会を立ち上げ、再発防止策を講ずる。

5. 診療記録等監査

診療記録等の記載から医療過程においてどのような影響があったか、診療記録等監査委員会で検証している。診療記録等監査委員会の統括の下に、インフォームド・コンセント分科会、診療記録検証分科会を置き、活動報告を受け、適切なインフォームド・コンセント及び診療記録等の記載実施について協議し、必要に応じて医療安全管理委員会へ報告を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

<p>① 院内感染対策のための指針の策定状況</p>	<p>有・無</p>
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>院内感染対策のための指針 2007年7月1日策定、2009年8月31日改訂、2014年5月20日改訂、2018年4月17日、2021年8月17日改訂 2022年4月1日改訂、2022年9月20日改訂</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 院内感染対策のための委員会その他の組織に関する基本事項 院内感染防止対策委員会、院内感染対策チーム(ICT)、ICTラウンド、抗菌薬適正使用支援チーム(AST)、リンクナース・リンクドクター 3. 院内感染対策のための従事者に対する研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. その他の医療機関内における院内感染対策の推進のための必要な基本方針 8. 感染対策に関する地域医療機関との連携 	
<p>② 院内感染対策のための委員会の開催状況</p>	<p>年12回</p>
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員の構成(委員:21名) 病院長、医療監査部長、診療部長、診療協力部長、看護部長、薬剤部長、診療技術部長、事務部GM、院内感染対策室長、中央手術室・中央滅菌材料室長、栄養支援センター長、感染症対策に関し相当の経験を有する医師等、委員長が必要と認めた関係者 2. 主な内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 新興感染症対策に関すること。 (2) 感染症の地域流行などの感染症情報の把握と提供に関すること。 (3) 院内感染発生の監視・疫学調査および情報の提供に関すること(細菌培養・薬剤感受性などの情報)。 (4) 感染症発生の届出に関する業務およびその情報の保管に関すること。 (5) 病院環境汚染の把握、医薬品や医療機器汚染の監視・指導に関すること。 (6) 抗菌薬・消毒薬の使用状況の把握・適正使用の指導に関すること。 (7) 院内の感染対策や感染制御の立案・実行・評価に関すること(院内感染防止対策マニュアル)。 (8) 感染対策全般に関するコンサルテーションや指導・教育に関すること。 (9) 院内感染防止対策に係る経費算定・管理に関すること。 (10) その他、病院長の指示する業務、あるいは委員会決定事項の遂行に関すること。 	
<p>3. 院内感染防止対策委員会開催状況</p> <p>2021年4月20日、2021年5月18日、2021年6月15日、2021年7月20日、2021年8月17日、 2021年9月14日、2021年10月19日、2021年11月16日、2021年12月14日、2022年1月18日、 2022年2月15日、2022年3月15日</p>	

③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年32回
<p>● 全体研修 医療安全・感染防止セミナー:全3回 (DVD視聴による医療安全・感染対策セミナー:全12回)</p> <p>・ 研修の内容(すべて)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全の日セミナー(医療安全の日webセミナー):令和3年4月9日(6月7日～8月31日) 「新型コロナウイルス感染症の一年間の総括と今後の備え」 「謝罪 ～医療事故被害者の望み～」 2. 上半期医療安全・感染防止セミナー:令和3年9月1日～令和4年3月31日 「麻薬の安全管理について」 「インスリン療法による入院糖尿病患者の血糖管理」 「安全なオンラインツール取り扱いのために」 「抗菌薬適正使用の現状と課題」 「COVID-19の現状と対策」 3. 下半期医療安全・感染防止セミナー:令和3年12月1日～令和4年3月31日 「放射線を知るための基礎知識(2)」 「個人情報の取り扱いについて2021」 「悪質クレイマーへの対応」 「医療機器の安全使用について」 「バンコマイシンTDMの新時代到来」 「O株について」 <p>● 職業別教育実績:全29回(WEB開催期間の全日数含まず) ・新人オリエンテーション・研修医対象クルズス・清掃業者対象セミナー・看護師中途採用者オリエンテーション・看護助手レクチャー・各部署対象感染対策レクチャーなど</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容: <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院における発生状況の報告等の整備 <ol style="list-style-type: none"> (1)感染症の院内における発生を迅速に把握できる方法確立し、院内感染を未然に防ぐ、または蔓延を防止するために、リアルタイムに対策を立てられるようにする。 (2)感染症の発生の報告は、主治医および病棟医長・看護単位責任者から東海大学医学部附属病院感染症患者報告書にて、院内感染対策室を経由して病院長に提出される。 (3)「感染症法」に規定される届出は最寄りの保健所長を経由して都道府県知事に届け出る。 2. その他の改善のための方策の主な内容 <p>耐性菌発生時の病棟別、診療科別動向調査を行い、薬剤使用状況との解析による各部署へのフィードバック、担当医に対するコンサルテーション、病棟ラウンド</p> 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年37回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 全職員に対する講義、医療安全・感染防止Webセミナー：全2回 「麻薬の安全管理について」 「インスリン療法による入院糖尿病患者の血糖管理」</p> <p>(2) 新規採用者《医師以外》に対する講義 医薬品の安全管理について 2021年4月3日</p> <p>(3) 医師に対する講義 全臨床助手・臨床研修医(麻薬・向精神薬・筋弛緩剤(毒薬)の 取り扱いと薬剤部門の業務)2021年4月1日 麻酔科研修医(中央手術室における麻薬・筋弛緩薬・ 向精神薬の管理について) 2021年10月16日,11月20日,12月18日,2022年1月15日,2月19日,3月19日 計6回 救命救急科研修医(救急救命士含む) (救命救急センターにおける麻薬・筋弛緩薬・向精神薬の管理) 毎月1回 計12回</p> <p>(4) 看護師に対する講義 看護部新人研修(医薬品の安全管理) 2021年4月23日 新人看護師向け医薬品の安全管理について(7B病棟、中央手術室) 2021年4月6日,8月21日 計2回 新人看護師向け病棟薬剤師業務の紹介(8階病棟、9階病棟、10階病棟) 2021年4月8日,9日,13日 計3回 新人看護師向けインスリン療法・抗菌薬について(9A病棟) 2021年6月23日 新人看護師向け産科領域で使用する薬剤について(6A・MFICU病棟) 2021年7月2日,16日 計2回 新人看護師向けインスリンの手技について(救命救急センター) 2021年9月29日 新人看護師向けクリーンベンチにおける混合調製について(NICU・GCU病棟) 2021年10月19日,21日,22日 計3回 12A病棟看護師向け勉強会ー抗菌薬のポイント・TDMについてー 2022年1月12日,19日 計2回</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>・ 病棟・外来に定数保管されている医薬品の保管状況及び品質管理(年3回)</p> <p>・ 医薬品情報の収集・管理・周知 周知した医薬品情報について医薬品安全管理委員会(月1回開催)に 報告し周知状況を確認</p>	

・未承認・適応外・禁忌等に該当する処方に関する情報
使用状況について医薬品安全管理委員会(月1回開催)に報告

・医薬品安全使用のための業務手順書の遵守状況の確認
手順書の遵守状況について病棟専任薬剤師によるチェックシートを用いた確認
医薬品安全管理室による医薬品安全ラウンドの実施

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 無)
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) :

【未承認新規医薬品】

点滴用AZT、AZTシロップ: HIV合併妊娠での母子感染防止
Omegaven(オメガベン): 腸管不全(静脈栄養)関連肝障害と栄養状態の改善

【適応外使用】

ザーコリカプセル: 進行胃がんStage IV 遺伝子パネル検査にて有効性が示された
オプジーボ点滴静注: 難治性古典的ホジキンリンパ腫(※小児の適応追加承認以前)
エクザール注射用、注射用メソトレキセート: 神経線維腫デスマイド型
ソリリス点滴静注: 腎移植術後の非典型溶血性尿毒症症候群(aHUS)、血栓性微小血管症(TMA)の治療(確定診断は得られていない状況での使用)
グリベック錠: 胃がん疑いによる肺腫瘍血栓性微小血管症(PTTN)による肺高血圧症

(以下、COVID-19感染症治療薬として)
クレキサン皮下注 (ヘパリンCa皮下注供給不足のため)

(院内製剤品)
トリクロール酢酸 30%

- ・ その他の改善のための方策の主な内容:

- ・ 薬剤師は内服・注射調剤、病棟業務等において未承認・適応外・禁忌医薬品の使用を把握した場合は、院内の情報端末にデータを登録する
- ・ 医薬品安全管理室は未承認・適応外・禁忌医薬品の使用状況を把握・管理し、医薬品安全管理委員会(月1回)へ報告する
- ・ 未承認新規医薬品等の提供について管理部門の業務手順書に、適応外使用について審査対象とするか「適応外使用を行う医薬品のリスク分類表」を制定し、申請の振り分けを行う。
- ・ がんゲノムプロファイリング検査を行ない、エキスパートパネルの結果、推奨治療とされた適応外使用については、エキスパートパネルの結果報告書を添付することで、科学的妥当性が判断されたものとする。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年80回 (80回:467日)
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1) 2021年度下半期 医療安全・感染防止Webセミナー『医療機器の安全使用について』 2021.12.1～2022.2.28</p> <p>2) 各医療機器の取扱い研修(病棟・各部門等) 補助循環装置(ECMO・IABP・IMPELLA),人工呼吸器,除細動器,閉鎖式保育器,血液浄化装置, 輸液・シリンジポンプ,ネーザルハイフロー,超音波診断装置,生体監視モニタ関連, 体外式ペースメーカ, その他(新規導入医療機器含む)</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有)・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>1) 人工心肺装置及び補助循環装置:年1回実施 2) 人工呼吸器:年1～2回実施 3) 血液浄化装置:年1回実施 4) 除細動装置:年1回実施 5) 閉鎖式保育器:年1回実施 6) CTエックス線装置(医用X線CT装置):年1～2回実施 7) 診療用高エネルギー放射線発生装置(直線加速器):年4回実施 8) 診療用放射線照射装置(腔内照射装置):年4回実施 9) 磁気共鳴画像診断装置(MRI装置):年2回実施 10) その他医療機器(ポンプ関連等):年1回実施</p> <p>点検内容:動作確認、精度確認、摩耗・損耗確認、安全機構確認、バッテリー及びパーツ交換</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有)・無)</p> <p>1) 医療機器安全管理室ホームページ上に,安全情報及び自主回収情報を掲載. 2) PMDA・医療機能評価機構,メーカーからの安全自主回収情報を関連部署と共有し, 毎月開催の医療機器安全管理委員会で定例報告.</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば):(適応外申請:4例)</p> <p>1) ENDOEYE FLEX 3D先端湾曲ビデオスコープの鏡視下咽頭悪性腫瘍切除術および 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術での使用(腹腔などの体腔内および経黄門・経直腸的使用以外での適応 外申請).</p> <p>2) グルコースモニタリングシステム:free styleリブレの遊離皮弁術および遊離複合組織移植術における 移植物の血行動態モニタリングに使用(持続血糖測定目的以外での適応外申請).</p>	

- 3) 短期的使用腎瘻用カテーテル:バーデックスマレコの口腔内吸引のための使用(医療用留置・排液カテーテルとしての使用以外での適応外申請)。
- 4) プラスチックカニューレ型滅菌済み穿刺針:サーフロー留置針の頭蓋内圧測定目的での使用。(動静脈留置用としての使用以外での適応外申請)

・ その他の改善のための方策の主な内容:

- 1) 医療機器に関わる「医療安全対策マニュアル及び基本マニュアル(携帯版)」の情報更新。
- 2) 医療機器の安全管理を推進するため、毎月1~2病棟において医療機器に関するラウンドを行い、機器の管理や使用方法の確認、医療機器に関する情報提供(モニターアラーム解析)医療機器に関する相談などを実施。
- 3) 医療機器に関するインシデント・アクシデント事例の調査及び改善。
- 4) 医療機器安全管理委員会にて、医療機器全般の不具合、安全使用、管理方法等についての検討の実施。
- 5) 医療機器の研修コンテンツ(説明文付きPPT)の作成とホームページへの掲載。本コンテンツを用い、当該部署のリスクマネージャーが主体となり、スタッフへの安全教育を実施。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・ 責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療監査部を設置し、医療安全担当副院長／医療監査部長が医療安全管理責任者として配置。医療安全管理委員会は、医療監査部長が委員長を務め、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者は委員となり、委員会にて活動報告を求めている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(7名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品に関する情報の収集・整理・周知に関する業務は薬剤部薬剤科 DI 係が行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の添付文書の情報のほか、医薬品製造業者、行政機関(PMDA 等)、学術誌等から情報を広く収集し整理する ・ 院内で発生した医薬品に係わる副作用情報を積極的に収集し、評価するとともに一元的に管理する ・ 医薬品に関する情報の周知は薬剤部薬剤科DI 係より、各部門、各職種へ病院情報システム、紙媒体などを通じて迅速に提供・周知を行う ・ 医薬品安全性情報等のうち、迅速な対応が必要となるものを把握した際は、当該医薬品を処方した医師及び投与された患者を速やかに特定し、必要な措置を迅速に講じる ・ 薬剤部薬剤科 DI 係より発信された情報は院内ポータル掲示板にて常時閲覧可能とする ・ 病棟専任薬剤師と薬剤部薬剤科 DI 係の薬剤師が必要に応じカンファレンス等を行い病棟専任薬剤師が病棟薬剤業務を実施するにつき必要な情報を提供する ・ 医薬品安全管理責任者は、医薬品安全管理委員会(月1回開催)に薬剤部薬剤科 DI 係より報告された医薬品情報および副作用情報の周知状況の確認を行う <p>(前年度件数)</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬事委員会採用情報 7回 薬事委員会試用情報 10回 薬事委員会採用中止情報 10回 「効能効果」「用法用量」の追加・変更情報 4回 医薬品・医療機器等安全性情報 9回 医療安全情報 18回 医薬品回収・品薄情報 103回 DI ニュース 20回 副作用関連情報(院内副作用報告一覧) 12回 薬発 等 15回 その他(販売中止、包装変更、オーダー停止、オーダー開始など) 26回 	

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

- ・薬剤師は調剤時、病棟薬剤業務等で未承認・適応外・禁忌等に該当する処方把握した場合は院内の情報端末にデータ登録する。担当者は添付文書、ガイドライン、文献等から、有効性、安全性に関する情報を収集し、医薬品安全管理委員会に報告し、必要に応じ適応外使用申請を依頼する。
- ・管理部門は未承認新規医薬品等(適応外使用も含む)の使用について、適応外使用医薬品については「適応外使用を行う医薬品のリスク分類表」より振り分けを行い、必要に応じ適応外使用申請を依頼する。
- ・医薬品安全管理責任者は、未承認等の医薬品に関しその使用状況の周知を行う。

・担当者の指名の有無(有・無)

・担当者の所属・職種:

(所属: 薬剤部薬剤科 医療監査部医薬品安全管理室付 , 職種 薬剤師)

(所属: 薬剤部薬剤科 医療監査部医薬品安全管理室付 , 職種 薬剤師)

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

(有) 無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容:

インフォームド・コンセント分科会を定期的を開催し、テーマを決めて検証を行っている。検証結果で改善すべき点が見受けられた診療科については、改善指摘文書を発行し、回答書の提出を求めている。また、IC用紙の記載不備の点検結果を科別に集計し、診療科長会にて周知・指導を行っている他、今期は次の点について「診療記録等監査委員会」に報告し、診療科長会等で周知・指導を行っている。

①説明・同意書の追加説明による支援体制の強化とフォーマット改訂

- ・医師からの説明時に看護師等の同席が困難な症例について、後日追加説明・理解度確認を行い、患者が正しく理解できるための支援体制を強化した。それに伴い説明の都度、署名するため、説明・同意書のフォーマットの同席者署名欄を同席者・説明支援者の選択署名ができる形式に改訂中。

②インフォームド・コンセントの運用フロー改訂

- ・成人年齢引き下げに伴い、「同意書への署名」欄に「18歳と19歳の患者については、親権者の署名だけでは無効」という文言追加及び「代諾者の条件」の年齢の修正を行い、院内ポータルに掲載した。

③運用徹底不備の再周知

- ・インフォームド・コンセントのタイトル使用率を診療科別に集計し、診療録への記載方法について徹底するよう再周知した。
- ・高気圧酸素治療の説明・同意書の発行もれについて、診療科長会で必ずインフォームド・コンセントを取得するよう周知した。

④事例検証結果を基に該当診療科へ改善指摘

- ・化学療法は初回投与時だけでなく、レジメン変更時にも、説明・同意書を交付しインフォームド・コンセントを取得するよう指導した。
- ・手術・処置等の説明・同意書とは別に、化学療法専用の説明・同意書を交付しインフォームド・コンセントを取得するよう指導した。
- ・インシデント・レポート事例となる事象や経過については、病状説明書を用いて患者に説明するとともに、診療記録や退院サマリにも記載するよう指導した。
- ・患者や家族に病状・治療方針等を説明する際は、病状説明書を用いて説明し、経過記録には、インフォームド・コンセントのタイトルを使用して内容記載するよう指導した。
- ・動静脈奇形・瘻に対する血管内塞栓術の説明・同意文書を定型フォーマット作成するよう指導した。
- ・説明・同意書への署名はスタンプではなく、自署を徹底するよう再指導した。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 診療録等の記載状況を日々確認(質的点検)し、記載不備の記録については、その都度記載医に訂正を求めている。 2. 診療記録検証分科会を定期的開催し、1. の質的点検で抽出した問題事例の検証を行っている。 3. 事例検証結果について、今期は以下の内容を診療記録等監査委員会に報告し、該当部署に指摘・改善・周知を求めた。 <ol style="list-style-type: none"> ①診療記録の記載方法について、当院の規程に基づき記載するよう指導。 ②死亡診断書の記載方法について、死亡診断書記入マニュアルに沿って記載するよう指導。 ③退院時要約の病名は、略語を使用せず、部位や性状等を詳細に記載するよう指導。 ④説明内容について、説明または同席した医師は、同席者・説明内容・患者の反応・理解度について、経過記録に記載するよう指導。 ⑤手術中に手技の変更や中止となった場合は、インフォームド・コンセントのタイトルを使用して患者に説明した内容を記載するよう指導。 ⑥退院時要約は、併診科が行った治療内容についても記載するよう指導。 4. 事例検証の中で全科に共通する事項については、診療記録等監査委員会に報告し、医療安全セミナー、診療協議会、診療科長会等において周知・指導を行った。 5. 退院時要約と手術記録作成システムの変更に伴い、記載不備等の差戻し基準を策定し、記載ルールと併せて診療科長会、医療情報委員会等で周知した。 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（10）名、専任（2）名、兼任（9）名 うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（8）名 うち薬剤師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（0）名 うち看護師：専従（3）名、専任（0）名、兼任（0）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)医療安全管理委員会の運営に関すること <ol style="list-style-type: none"> ①医療安全管理委員会の資料及び議事録の作成と保存 ②その他医療安全管理委員会の庶務に関すること (2)医療事故発生時の対応に関すること <ol style="list-style-type: none"> ①事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び必要な指導を行う ②患者及び家族への説明など事故発生時の対応状況について確認及び必要な指導を行う ③事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認及び必要な指導を行う (3)安全管理のための職員に対する教育、研修の企画・運営に関すること (4)医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策に関すること <ol style="list-style-type: none"> ①インシデント及びアクシデント発生時における情報の収集と分析 ②事故予防策、再発予防策の立案・評価及び見直し (5)医療安全に係る連絡調整に関すること (6)その他医療安全対策の推進に関すること (7)医療安全に関する官公庁への届出及び報告に関すること (8)診療記録等の監査に関すること (9)医薬品安全管理委員会の運営に関すること 	

- (10) 医療機器安全管理委員会の運営に関する事
- (11) 高難度新規医療技術評価委員会の運営に関する事
- (12) 未承認新規医薬品等評価委員会の運営に関する事
- (13) 医療放射線安全管理委員会の運営に関する事
- (14) 放射線治療品質管理室会議の運営に関する事

※ 診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例

- ・ 予定手術開始前 1 時間以内の予防的抗生剤投与割合
- ・ 再手術率 (48 時間以内、術後 30 日以内)
- ・ 医原性気胸の発生率
- ・ 術後合併症発生率
- ・ 退院後緊急入院率 (2 週間・6 週間・30 日以内)
- ・ 死亡退院患者率

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数 (4 件)、及び許可件数 (4 件)
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無 (有・無)
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有・無)
- ・ 活動の主な内容:
 - ・ 診療科の長から申請のあった申請内容を確認し、高難度新規医療技術評価委員会へ当該高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求める。
 - ・ 評価委員会が述べた意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、申請のあった診療科の長に対しその結果を通知する。
 - ・ 導入後、5 症例程度の手術記録、診療録などの記載内容を当該科の長より報告を求める。
 - ・ 当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的及び術後に患者が死亡した場合、その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認する。
 - ・ 当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか、従業者の遵守状況の確認を行う。
 - ・ 医療安全管理委員会と連携する。
 - ・ 評価委員会に係る事務。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有・無)
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (有・無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (11 件)、及び許可件数 (10 件)
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有・無)
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有・無)

・活動の主な内容:

- ・未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否を決定する部門を、医薬品は医薬品安全管理室、医療機器は医療機器安全管理室とし、未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関する業務を処理する。
- ・診療科の長は、当該診療科において未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合には、あらかじめ、医薬品安全管理室または医療機器安全管理室に当該未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の申請を行う。
- ・医薬品安全管理室または医療機器安全管理室は、診療科の長から申請のあった申請内容を確認するとともに、未承認新規医薬品等評価委員会に対して、当該未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について意見を求める。
- ・医薬品安全管理室または医療機器安全管理室は、評価委員会が述べた意見を踏まえ、当該未承認新規医薬品等の提供の適否等について決定し、申請を行った診療科の長に対しその結果を通知する。
- ・医薬品安全管理室または医療機器安全管理室は、当該未承認新規医薬品等が適正な手続に基づいて使用されていたかどうかに関し、定期的に診療録等の記載内容を確認する。
- ・医薬品安全管理室または医療機器安全管理室は未承認新規医薬品等が適正な手続に基づいて使用されていたかどうか、従業者の遵守状況の確認を行う。
- ・医薬品安全管理室または医療機器安全管理室は、未承認新規医薬品等の使用の適否等についての結果、及び未承認新規医薬品等規程に定める事項の従業者の遵守状況を病院長に報告する。
- ・医療安全管理委員会と連携する。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 735 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 221 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

- ①診療科からの報告状況の確認及び確認結果の管理者への報告
- ②提出率を示し、報告状況が不十分な場合は、当該科の長を指導

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り (有) (病院名：①東京女子医科大学病院、②国立がん研究センター東病院) ・無)
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ (有) (病院名：①東京女子医科大学病院、②国立がん研究センター東病院) ・無)
- ・技術的助言の実施状況
特に技術的助言なし。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

(患者相談窓口の設置状況)

- ・設置年月日: 昭和54年4月1日
- ・窓口の名称: 総合相談室
- ・相談に応じる時間帯: 月曜日～金曜日9:00～15:00、土曜日(第2、第4を除く)9:00～12:00

- ・責任者職種:患者支援センター所長／医師
- ・対応職員:患者支援センター総合相談室 社会福祉士

(窓口の活動に関する患者への明示)

- ・明示している場所:各科外来、東海ホール・けやき口掲示板、各病棟
- ・明示内容:活動の趣旨、設置場所、担当者・責任者、対応時間

(窓口の活動に関する規約の整備状況)

- ・規約の整備(平成15年4月1日)

(相談により患者や家族が不利益を受けないような適切な配慮)

具体的な配慮の状況

- *プライバシーの保護、匿名での相談及びご意見箱の設置(無記名での投書を可能としている)

(窓口以外の苦情相談の受付方法)

- ・電話、投書箱、インターネット相談の実施
- *電話相談:総合相談室、当該部署で受けた内容を記録用紙あるいは任意の用紙に記載している

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

- ・研修実施後の学習効果測定として e-learning を年 1 回実施
- ・RM 会
 - <内容>
 - 令和 3 年 9 月 16 日 ①「2021 年度医療安全に関する周知内容」
 - ②「良いコンサルテーションとコーチング」

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者:令和3年度 特定機能病院管理者研修[継続](令和4年1月25日)
 医療安全管理責任者:令和3年度 特定機能病院管理者研修[継続](令和3年11月22日)
 医薬品安全管理責任者:令和3年度 特定機能病院管理者研修[初回](令和4年2月2日)
 医療機器安全管理責任者:令和3年度 特定機能病院管理者研修[継続](令和4年2月14日)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

日本医療機能評価機構の病院機能評価・一般病院3を受審し、2020年3月6日認定。
(訪問審査実施日:2019年10月7日~10月9日)

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況
公表していない。

・評価を踏まえ講じた措置

- ①高難度新規医療技術の承認後のモニタリングについて、「経過観察期間」のモニタリングに関する院内の規程および「高難度新規医療技術の手続き」の運用フローの見直しをした。これにより医療安全専従医師は、高難度新規医療技術の承認後の事例で個別に設定された経過観察期間に基づき診療録等を適宜確認し、「モニタリング実施記録」を作成している。
- ②医薬品等適応外使用について、適応外使用を行う医薬品のリスク分類を行い、未承認新規医薬品等評価委員会で審査し、病院としてその使用の適否を決定し記録に残している。適応外使用のモニタリングは、モニタリングシートを用い医薬品安全管理責任者に報告を行っている。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 日本国の医師免許を有する者 (2) 医学教育，学術研究及び診療に関して高い見識を有する者 (3) 本学の建学の精神に深く共鳴して，その具現を積極的に推進しようとする者 (4) 医療安全確保のために必要な資質及び能力を有する者 (5) 病院の管理運営に必要な資質及び能力を有する者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有・無 ） ・ 公表の方法 東海大学医学部附属病院ホームページに掲載
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>①附属病院の事業計画の企画・立案に関する事項 ②附属病院の管理・運営に関する事項 ③附属病院の予算・決算に関する事項 ④附属病院の人事に関する事項 ⑤その他病院長が必要と判断した審議事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>診療科長会(構成員:医師等;各診療科長)、病院運営連絡会(構成員:医師、看護師、技術職員、事務職員;各病棟・部署所属長)での周知報告により、全体周知を図っている。また、必要に応じて病院本部会議、医学部協議会、医学部教授会等で報告するとともに、文書による周知を行っている。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無 (有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>)</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無 (有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>)</p>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
渡辺 雅彦	○	医師	病院長、病院本部副本部長
飯田 政弘		医師	常務理事、病院本部本部長 学校法人東海大学常務理事
八木 憲司		事務職員	病院本部副本部長、学校法人東海大学常務理事
小川 吉明		医師	副院長、病院本部ヘルスマネージャー(情報システム)
深川 雅史		医師	副学部長(診療担当)
浅野浩一郎		医師	副院長
岩崎 正之		医師	副院長、中央診療部長
大上 研二		医師	副院長、医療監査部長
吉岡公一郎		医師	副院長、診療部長
横田 弘子		看護師	副院長、看護部長、看護師キャリア支援センター所長
鈴木 秀和		医師	臨床研修部長
中川 儀英		医師	診療協力部長
新倉 直樹		医師	新型コロナセンター所長
石本 人士		医師	総合周産期母子医療センター所長

山本 賢司		医師	患者支援センター所長
守田 誠司		医師	高度救命救急センター所長
小林 広幸		医師	治験・臨床研究センター所長
川又 郁夫		診療放射線技師	診療技術部長
鈴木 優司		薬剤師	薬剤部長
原 義徳		事務職員	病院運営企画室ゼネラルマネージャー 事務部ゼネラルマネージャー
齊藤 成広		事務職員	病院運営企画室ゼネラルマネージャー（東海大学メディカルサイエンスレジデンスオフィス(教学・図書)）
中村 晃司		事務職員	病院運営企画室シニアマネージャー（経営企画）
本間 功一		事務職員	病院運営企画室シニアマネージャー（伊勢原キャンパスグラントデザイン）
大島慎一郎		事務職員	病院運営企画室シニアマネージャー（財務・ファシリティ）
桑久保ひとみ		事務職員	病院運営企画室シニアマネージャー（総務）
鈴木 政智		事務職員	病院運営企画室マネージャー（診療情報・システム）
志田 紀子		事務職員	病院運営企画室マネージャー（診療情報・システム）
萩野 智尉		事務職員	病院運営企画室マネージャー（医事・健診）
佐藤 梢		事務職員	病院運営企画室マネージャー（人事）
磯 みどり		看護師	病院運営企画室マネージャー（看護）

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・**無**）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容
 病院長について以下のとおり規定している。
 - ① 病院に病院長を置く
 - ② 病院長は、医療法第10条の規程に則ったものであるとともに、人格が高潔で学識に優れ、かつ、病院の管理・運営に関し識見を有する者とする。
 - ③ 病院長は、病院管理者として病院の業務を統括する。
 - ④ 病院長は、病院で行われる診療、教育及び研究について、その実施を許可し、実施状況について報告を求め、必要に応じて是正又は停止を命ずることができる。
 - ⑤ 病院長の選任及び任期については、「東海大学医学部附属病院機関における病院長及び副院長の選任規程」の定めるところによる。

- ・ 管理者をサポートする体制(副院長、院長補佐、企画スタッフ等)及び当該職員の役割
 - 副院長(担当業務:診療・渉外)
 - 副院長(担当業務:診療協力、働き方改革)
 - 副院長(担当業務:中央診療)
 - 副院長(担当業務:医療安全)
 - 副院長(担当業務:情報システム)
 - 副院長(担当業務:看護・患者支援)
 - 事務部ゼネラルマネージャー(担当業務:事務全般)

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - 病院部門 執行部研修会
 - [開催時期]6月
 - [研修内容]本院及び医学部附属東京病院、同大磯病院、同八王子病院の各病院長、看護部長、事務部ゼネラルマネージャーから中期第2期運営方針・事業計画を踏まえ、病院本部の最優先課題である「病院の安定経営と事業発展」「2042年の建学100周年に向けた長期ビジョンの構築」を目指した研修。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					(有)・無
<p>・監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・活動の主な内容： 医療安全管理業務(以下の(1)～(6))の実施状況について管理者から報告等を求め、その適切性を判断する。また、必要に応じて、是正措置を講じるよう、理事長及び管理者に対し、書面により意見を表明する。</p> <p>(1) 医療安全管理責任者の業務 (2) 医療安全管理部門の業務 (3) 医療安全管理委員会の業務 (4) 医薬品安全管理責任者の業務 (5) 医療機器安全管理責任者の業務 (6) その他医療安全管理業務に係る事項</p> <p>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無((有)・無) ・委員名簿の公表の有無((有)・無) ・委員の選定理由の公表の有無((有)・無) ・監査委員会に係る内部規程の公表の有無((有)・無) ・公表の方法： 当院ホームページに委員名簿、委員の選定理由を掲載。 議事録は監査委員会終了後に掲載。</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
三木 保	医療法人慶友会 守谷慶友病院長 東京医科大学 名誉教授(医師) (前東京医科大学 病院長)	○	特定機能病院の管理者を経験し広い識見その他の学識経験を有している者。また、特定機能病院医療安全管理責任者を経験し医療安全管理に長けている者。さらに、医療安全や質の向上を目的に医療安全文化の構築を推進する者	有(無)	1
大塚 達生	弁護士 (神奈川県弁護士会)		患者さん側の立場に立った弁護をされている者	有(無)	1
山口 育子	認定 NPO 法人 ささえあい医療 人権センター COML 理事長		患者と医療者の協働の実現により医療現場により良いコミュニケーション	有(無)	2

			を築く活動をされている者		
細野 文和	伊勢原市保健福祉部長		行政としての立場及び一般の立場の代表者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
安田 聖栄	医療法人社団あんしん会四谷メディカルキューブ理事長(医師)(元東海大学医学部教授, 前東海大学医学部付属病院副院長)		東海大学医学部付属病院の医療安全統括者を経験し、医療安全管理に長けている者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1
千野 修	東海大学医学部付属東京病院副院長・医療安全対策室長(医師)		東海大学医学部付属東京病院の医療安全統括者であり、医療安全管理に長けている者。また付属病院群の医療安全に係る責任者の代表者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

病院長が議長となり、病院の各種事業について審議・報告する「病院運営会議」に、
各種の職種が出席することとなっており、相互牽制する体制を敷いている。

・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)

病院を含む法人全体を担当する、以下の部署を設置している。

業務の監督体制 : 監査室

コンプライアンスに係る体制 : 学園事務センター人事・法務ユニット

病院内で担当する部署としては、病院本部病院運営企画室が担当する。
(上記の「病院運営会議」の運営を含む)

・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 病院外を含む法人全体の監督をする会議体として、定例理事会が開催されている。 理事には外部有識者を含み、メンバーは学校法人東海大学のホームページでも公開している。 ・ 会議体の実施状況(年 5 回) ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数(<input checked="" type="radio"/> 有・無) (年 5 回) 病院長は病院本部副本部長を務め、定例理事会には、 病院部門部門長(病院本部本部長、前病院長)、病院本部副本部長(前病院事務部部长)が 常務理事として毎回参画している。 上記は当該理事の参画状況。 ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無(<input checked="" type="radio"/> 有・無) ・ 公表の方法 ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年2件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法<ul style="list-style-type: none">・ 病院情報端末の医療安全アイコン内に「内部通報」を掲載・ 医療安全対策マニュアル／医療安全基本マニュアルに医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口及び使用方法について掲載・ 医療安全・感染防止セミナー、RM会、e-learningで周知・ 医療安全ラウンドで確認し、理解が不十分な場合はその場で指導を行い、責任者宛にフィードバックしている。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無

有・無

・ 情報発信の方法、内容等の概要

病院ホームページにおいて、病院の概要、理念、基本方針、取り組み、診療機能、診療実績
医師の専門性、各種講座・講演会等の情報発信を行っている。

また、近隣医療機関向けには、「診療案内」、「医療連携通信」、「のぞみ」等の冊子・チ
ラシを配布、患者さん向けには「けんこうさろん（季刊誌）」、医学小知識（毎月）」を定期
発行している。

院内の掲示板には「病院の理念」、「基本方針」を明示している。

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無

有・無

・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要

【他職種にて構成するチーム医療の体制について】

栄養サポートチーム・呼吸ケアチーム・緩和ケアチーム・褥瘡対策チームなどが定期的に回
診を行い、診療科・職種の枠を超え、患者のケアにあたっている。

また、口腔機能管理が必要な患者に対して、手術を実施する診療科と口腔外科が医科・歯科
連携を行い、周術期等口腔機能管理を実施している。